

国際学部国際コミュニケーション学科 カリキュラムマップ

履修区分	科目区分		1年次	2年次	3年次	4年次
必修	学科導入科目	入門科目	グローバル・ディスカバリー			
	演習科目	基礎科目		基礎演習		
		発展科目				専門演習1a・1b
全員履修	学部導入科目	入門科目	国際学への招待			
	演習科目	入門科目	大学入門ゼミa・b			
		基礎科目		専門演習アプローチ		
選択必修	語学科目群	英語	基礎科目	Basic English Grammar1・2/Basic English Reading 1・2/Basic Oral Communication 1・2/資格ビジネス英語1・2/Intermediate English Grammar1・2/Intermediate English Reading 1・2/Intermediate Oral Communication 1・2		
				英語圏留学入門		
			発展科目	Advanced English Grammar1・2/Advanced English Reading 1・2/Advanced Oral Communication 1・2/資格ビジネス英語3・4		
			応用科目	Writing in English1・2/Debate and Discussion/Topic Studies/Presenting in English 1・2/Advanced English Reading 3・4/academic Reading 1・2/business English/ドラマで学ぶ英語/ホスピタリティ英語 1・2/通訳入門/翻訳入門		
		中国語	基礎科目	中国語コミュニケーション1・2/台湾華語		
			発展科目	中国語検定講座a・b/ネットビジネス中国語		
			応用科目	中国語コミュニケーション3・4/中国語で日本案内/接客のための中国語/ポスト留学中国語		
		韓国語	基礎科目	韓国語コミュニケーション1・2/Kpopとドラマで学ぶ韓国語/トラベル韓国語/韓国語実用会話1・2		
			発展科目	韓国語検定講座a・b		
		応用科目	韓国語コミュニケーション3・4/韓国語で日本案内/ポスト留学韓国語/韓国語ビジネス1・2			
	日本語(※)	基礎科目	日本語読解1a・1b/日本語聴解発話1a・1b/日本語レポート1a・1b			
		発展科目	日本語読解2a・2b/日本語聴解発話2a・2b/日本語レポート2a・2b			
			応用科目	日本語演習a・b		
			応用科目	総合日本語a・b/日本語レポート3a・3b/ビジネス日本語1a・1b		
				ビジネス日本語基礎a・b/ビジネス日本語2a・2b		
	国際文化科目群	基礎科目	歴史と文化入門/文化交流史1~3/英文学概論/米文学概論/現代アメリカ文化論			
		発展科目	多様性の文化論/都市文化論1~3/日本風俗研究/ヨーロッパ芸術論/アジアの美術			
		応用科目	文化と言語化論			
				文学と宗教文化		
	国際関係科目群	基礎科目	国際関係入門/多文化社会論/比較政治文化論/日本の政治と外交			
		発展科目	グローバル・ガバナンス論/宗教と社会/国際関係学/比較政治学/国際協力論/民間協力(NGO/NPO)論/現代社会論/アジア国際関係史			
		応用科目	国際政治経済論/国際平和論			
	メディア科目群	基礎科目	グローバル・イシュー/マスコミュニケーション論/情報メディア入門/メディア・情報文化史			
		発展科目	メディア表現論/広告文化論/放送文化論			
応用科目		音楽産業論				
			キャラクター論			
心理科目群	基礎科目	自己理解心理学入門/心理統計学1/対人コミュニケーション心理学/心理学研究法				
	発展科目	異文化コミュニケーション論/社会心理学/知覚・認知心理学/発達心理学/コミュニケーションスキル実習/観光とホスピタリティの心理学/被服・化粧品心理学/消費者の心理/産業・組織心理学				
	応用科目	福祉心理学/文化心理学				
			心理統計学2			
自由選択	実践科目群	発展科目	プロジェクト型国内実習a・b/プロジェクト型国際実習a・b			
	特殊講義	応用科目	特殊講義1・2			
	その他		国際ビジネス論/航空産業論/宿泊産業論/観光交通論/ホスピタリティ産業論/旅行ビジネス論/集客産業施設運営論/観光企業論			
			異文化経営論/中国・アジアビジネス論/アメリカビジネス論			

※ 日本語科目は留学生専用科目です。

[国際学部国際コミュニケーション学科]授業科目の概要

※50音順

授業科目の名称	講義等の内容
Academic Reading 1	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、語彙・文法だけでなく、内容の点でも高度な英文の読解力を修得し、自身の考えを英文で、また口頭で表現できるようになることを目指す。また英語史に関する理解を深めることも目標とする。授業では、英国放送協会(BBC)のドキュメンタリー“The Story of English”を題材とした、英語史を一般読者用にわかりやすくまとめたテキスト等を使用する。英文に散見される、重要な語彙や文法事項を確認し、発信型のタスクに取り組むことで、英語表現力の向上も目指す。テキストには、シェイクスピアやジェイン・オースティンの原典からの抜粋が挿入されており、これらの作家達の文学史的な解説も試みる。同時に関連する映像資料を授業に導入し、英語という言語そのものに関する理解を深め、今や世界共通語となった英語の過去と現在、さらには未来についても学修する。</p>
Academic Reading 2	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、知的で高度な内容の英文を正確かつ迅速に読み進めることができるようになることと、修得した英語表現を用いて、自らの考えを、500語程度の英文、または5分間程度の英語スピーチで、示すことができるようになることを目指す。授業においては、英国放送協会(BBC)で放映された“The Story of English”を元にまとめられたテキスト等を用いて、歴史的観点から英語という言語を考える。テキストにはイギリス英語独特の表現が散見され、この点を積極的に取り上げることで、英語と米語の相違に関する知識も深めたい。さらに発信型能力の向上も目指して、重要な構文や語法、語彙の確認を重点的にを行い、これらを用いたライティング・スピーキング演習も行う。</p>
アジア国際関係史	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、先ず、現代におけるアジアの国際情勢を俯瞰し、種々の問題のありかについて講義する。そこから時代を遡及することで、種々の問題が生じた歴史的背景を明らかにしていく。具体的には、授業が開始される2025年度を時間軸の起点として、18世紀末19世紀初頭までのアジア世界の変遷を、世界史的視点で遡っていく。その過程で、現在のアジアという枠組みがいかに構築され、現在存在する種々の国際的な諸問題がどのように生じてきたのかを国際関係の枠組みのなかで理解を深める。</p>
アジアの美術	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、絵画・彫刻とも、まずは基礎知識と資料の見方を学び、それぞれの資料を全体だけではなく、細部に至るまで詳細に観察し、その特徴をできるだけ自分自身で把握するための講義を行う。その上で時代ごとに中国・朝鮮半島からの文化の伝播を考えながら、様式の変化を捉えるとともに、各資料が造られた時代及び思想的背景を考察してゆく。なお、本科目では、絵画では、玉虫厨子・法隆寺金堂壁画(飛鳥時代・白鳳時代)、涅槃図・阿弥陀来迎図(平安・鎌倉時代)、曾我蕭白と伊藤若冲らの作品(江戸時代)を、仏像では、法隆寺金堂釈迦三尊像(飛鳥時代)、橘夫人念持仏など(白鳳時代)、薬師寺薬師三尊像と興福寺八部衆像(奈良時代)、神護寺薬師如来立像・新薬師寺薬師如来坐像・平等院鳳凰堂阿弥陀如来坐像(平安時代)、運慶・快慶の仏像(鎌倉時代)などを取り上げる。</p>
Advanced English Grammar1	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、大学上級レベルの文法知識をリスニング、リーディング、ライティングを通して修得する。まず、使われている文法の意味を理解し、次にどのような形で使われるのか、そしてどのような文脈で使用されるのかを理解して、コミュニケーションに繋げる。この科目では上級レベルのより基礎的な時制(過去・現在・未来)、相(完了・進行)、主語と動詞の一致、名詞、代名詞、冠詞、法助動詞、受動態について学修理解を深める。</p>
Advanced English Grammar2	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、大学上級レベルの文法知識をリスニング、リーディング、ライティングを通して学修する。まず、使われている文法の意味を理解し、次にどのような形で使われるのか、そしてどのような文脈で使用されるのかを理解して、コミュニケーションに繋げる。この科目では上級レベルのより複雑な名詞節、形容詞節、動名詞、不定詞、接続詞、副詞節、副詞節の副詞句への変換、仮定法について学修理解を深める。</p>
Advanced English Reading 1	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、多様な内容の英文読解に不可欠な基礎的な語彙や文法を修得し、英語で書かれた文章におけるパラグラフ構造について、理解できるようになることを目標とする。また新しく学んだ英語表現を正確な発音ともに修得し、それらを用いて、自身の見解を英語でまとめる、または口頭で発表できるようになることも目指す。理解が難しいと思われる英文については、その構造を重点的に説明する。新出単語の発音練習を行ったのち、英文の理解度を問う問題に取りくむ。併せて、読了した英文を活用したディクテーションも行う。</p>
Advanced English Reading 2	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、自然科学や人文科学など、様々な話題を扱う英文の理解に必要な基礎的な語彙や文法知識を修得し、日本語で書かれた文章とは異なる英文パラグラフの仕組みを理解できるようになることを目指す。さらに新出の英語表現の発音や用法をマスターし、それらを活用して、自らの考えを英語で述べることも目標とする。授業においては、ある程度の長さがある英文を毎回の授業で通読し、重要な文構造やパラグラフ構成については時間を割いて説明する。新出単語の発音練習を行ったのち、英文の理解度を問う問題に取りくむ。併せて、読み終えた英文を用いた音読も行う。</p>
Advanced English Reading 3	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、難易度の高い英文読解に不可欠な語彙や文法に関する知識を身につけ、その内容をすばやく正確に理解するだけでなく、文体の多様性をふまえ、言葉の深淵を捉えた読解力を養成する。また読み終えた英文に対して、自分なりの考えを英語でまとめる、あるいは口頭で述べる能力の修得も目指す。テキストの各ユニットには、やや長めの英文が収められているが、各回の授業ごとに読み切る。またスキミングやスキニング等のリーディングスキルを紹介し、新出単語の発音練習を行ったのち、英文の理解度を問う問題に取りくむ。ディクテーションと音読活動を導入することにより、総合的な英語力を修得する。</p>
Advanced English Reading 4	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、英文で書かれた内容を正確かつ迅速に理解するだけでなく、書き手の文体上の特色や、用語選択の意図を理解した、言葉の深淵を捉えた読解力を養成する。さらに、読み終えた英文に対して、300語程度の英文、または3分間程度の英語スピーチで、自身の見解を示す能力の伸張も目指す。毎回の授業では、英文を読み切ること前提に、理解が難しいと思われる自然科学系や社会科学系の語彙、また複雑な倒置・省略表現などの説明を行う。併せて修得したリーディングスキルを用いて、英文の理解度を問う問題に取りくむ。またディクテーションや音読も行う。</p>

授業科目の名称	講義等の内容
Advanced Oral Communication 1	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、毎回の授業でのディスカッションに向けて行う事前学修によってリーディング力を向上させ、同時に、英語で行われる授業に参加することによりリスニング力と、プレゼンテーションやディスカッションへの参加によってスピーキング力を向上させることを目的とする。特に、次の3点に重点を置く。</p> <p>①英語の情報検索、精読、要約を行うことができる。</p> <p>②自分の意見をまとめて、発表することができる。</p> <p>③自分の主張を明確にし、他者の意見を批判的に傾聴し、論理的に自分の見解を示すことができる。</p>
Advanced Oral Communication 2	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、「Advanced Oral Communication1」で学修した能力をさらに高めることを目的とする。毎回の授業でのディスカッションに向けて行う事前学修によってリーディング力を向上させ、同時に、英語で行われる授業に参加することによりリスニング力を、さらにプレゼンテーションやディスカッションへの参加によってスピーキング力を向上させることを目的とする。特に、以下の3点に重点を置く。</p> <p>①英語の情報検索、精読、要約を行うことができる。</p> <p>②自分の意見をまとめて、発表することができる。</p> <p>③自分の主張を明確にし、他者の意見を批判的に傾聴し、論理的に自分の見解を示すことができる。</p>
アメリカビジネス論	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、20世紀以降に登場したアメリカにおけるビッグビジネスの形成過程から21世紀の最新のビジネスまでの歴史的变化を見ることによって、絶えず世界をリードしてきたアメリカビジネスの特徴について講義する。特に高度経済成長期のフォードシステムに代表される大量生産方式、IT革命を主導したやウインテルなどのICT企業の成長、更には21世紀におけるデジタル革命とGAFに代表されるプラットフォームの台頭など、各時代の代表的なアメリカビジネスとビジネスモデルの成長と衰退要因、今後の発展方向について理解を深める。</p>
異文化経営論	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、人的資源管理(HRM)や組織文化論の視点からグローバル・ビジネス・コミュニケーションの特徴や諸問題について考察し、異文化経営への理解を深めるための講義を行う。具体的には、現代社会におけるダイバーシティ問題や異文化マネジメントの諸問題を取り上げ、グローバル経営における人事・組織マネジメントの意義を確認しながら、ケースを扱いつつ、それを組織や個人でコントロールするための方法論を学ぶ。</p>
異文化コミュニケーション論	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、異文化への理解を深め、自己の再発見と相対化が可能な複眼的視点を養うための講義を行う。異文化理解とは、自分の文化とは異なる文化を理解したり、解釈したりすることである。ITの発達とグローバル化に伴って文化背景の異なる人々との直接・間接的な接触が頻繁になり、私達の身近なところで多文化が共存している一方で、差別や偏見も広がっている。このような現状を踏まえ、異文化とどのように向き合うか、異文化理解とは何かを考え、異文化理解のソフトな部分のみならず価値観の相違や偏見・差別などハードな部分にも目を向ける。異文化間で生じる多様なトラブルの根源にある異なる価値観に対する理解を深めることで、文化背景の異なる人々との有効な異文化コミュニケーションを促す。</p>
Intermediate English Grammar1	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、大学中級レベルの文法知識をリスニング、リーディング、ライティングを通して学修する。まず、使われている文法の意味を理解し、次にどのような形で使われるのか、そしてどのような文脈で使用されるのかを理解して、コミュニケーションに繋げる。この科目では中級レベルのより基礎的な時制(過去・現在・未来)、相(完了・進行)、疑問文、名詞・代名詞、法助動詞について学修理解を深める。</p>
Intermediate English Grammar2	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、大学中級レベルの文法知識をリスニング、リーディング、ライティングを通して学修する。まず、使われている文法の意味を理解し、次にどのような形で使われるのか、そしてどのような文脈で使用されるのかを理解して、コミュニケーションに繋げる。この科目では中級レベルのより複雑な接続詞、形容詞・副詞の比較級・最上級、受動態、名詞の可算・不可算、形容詞節、動名詞、不定詞、名詞節について理解を深める。</p>
Intermediate English Reading 1	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、Basic English Reading1および2で学修した内容を踏まえ、大学中級レベルの読解力の修得へ向けて、テキストの各章に収められたやや長めの英文と、それに関連する問題に取り組む。授業では引き続き、語彙学修に力を注ぎ、頻繁に単語テストを実施するが、さらに修得した語彙や熟語などの表現を用いた英作文力と、読み終えた英文を活用したディクテーションを通して、リスニング力を養成する。</p>
Intermediate English Reading 2	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、「Intermediate English Reading1」で学修した内容を踏まえ、大学中級レベルの読解力の修得へ向けて、テキストの各章に収められた長めの英文と、それに関連する問題に取り組む。授業では引き続き、語彙学修に力を注ぎ、頻繁に単語テストを実施するが、さらに修得した語彙や熟語などの表現を用いた英作文力と、読み終えた英文を活用したディクテーションを通して、リスニング力を養成する。</p>
Intermediate Oral Communication 1	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、大学中級レベルの英語のスピーキング力およびリスニング力を修得し、口頭および文章で概要を英語で述べるようになるための講義を行う。履修学生は、英語での発言力を向上させるために、語彙力を修得する。講義は、特に次の3点に重点を置く。</p> <p>①大学中級レベルの英語で自分の考えを発表できる。</p> <p>②スピーキングとリスニングを通して異文化を理解し、様々な視点を知る。</p> <p>③自律的に学ぶ態度を修得する。</p>
Intermediate Oral Communication 2	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、「Intermediate Oral Communication1」で学修した大学中級レベルの英語のスピーキング力およびリスニング力をさらに向上させ、より高いレベルで口頭および文章で概要を英語で述べられるレベルを修得する。その達成に向けて次の3点に重点を置く。</p> <p>①大学中級レベルの英語で自分の考えを発表できる。</p> <p>②スピーキングとリスニングを通して異文化を理解し、様々な視点を知る。</p> <p>③自律的に学ぶ態度を修得する。</p>
英語音声学概論	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、英語の音声について概要を学ぶ。英語の母音の数は日本語より多く、耳で聞き分けることは、青年期を迎えるとかかなり難しくなる。これを克服するために、発音記号を用いて視覚的に区別する。子音の発音は調音点と母音の調音点を講義した上で意識すれば発音ができるように指導する。発音記号については、やさしい単語や短い文をIPAでの表記、逆にIPAの表記を英語で表すことができるように指導する。イギリス英語(Received Pronunciation)とアメリカ英語(General American)の比較もするが、基本的にGAの習熟を目的とする。</p>

授業科目の名称	講義等の内容
英語学概論	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、英語という言葉についての言語学のクラスとして、英語について総合的な知識を得ることを目的とする。以下の6つの点について基礎的な知識を得る。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①他の言語との比較 ②形態論(語や句がどのように形成されるか) ③統語論(センテンスがどのように形成されるか) ④意味論(語の意味とは何か) ⑤語用論(実際に使用される時の語・句・センテンスの意味がどのように形成されるか) ⑥コミュニケーション(どのようにして意思を伝達するか)
英語圏留学入門	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、次の2点を重点項目として講義を行う。Ⅰ 英語圏留学に関する基礎知識についての学修(文化・習慣・社会情勢・留学事情や留学する際の危機管理)。Ⅱ 空港・機内・ホテル・観光地・ホームステイ先等でのコミュニケーションスキルの学修。具体的には、以下の3点を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①出国から帰国するまでに遭遇する場面で必要とされるコミュニケーション力の修得。 ②出国から帰国までに求められるコミュニケーションスキルへの理解。 ③「わたしの留学」をテーマに自分がプランした留学のプレゼンテーション。
英語発音クリニック	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、まず個々の子母音を確実に発音できるようになるための講義を行う。特に日本語にない、/l/ と /r/ の区別や、/ə/、/f/、/v/ などの子音の発音、さらに、日本語母語話者には同じ音に聞こえる母音の区別、例えば同じ「ア」に聞こえる /ɑ/、/ʌ/、/æ/ の区別などを修得する。その上で、ナチュラル・スピードで話される英語で生じる音の連結(語の最後の子音と次の語の最初の母音の連結)、脱落(want to が wanna に変化する /nt/ の連結で生じる脱落)、同化(ten bikes の 歯茎音 /n/ が後続の両唇音/b/ に影響されて、両唇音 /m/ に変化する)などの発音の変化を学ぶと共に、リスニング力を高めると同時に、自分で発音できるようになる。</p>
英文学概論	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、イギリス文学の歴史を学び、使用されている英語表現の多様性、また作品の文化的背景を理解するための講義を行う。特に講義では、「英国小説の発達」に着目し、近代市民社会の誕生とともに生まれた小説という表現形態が、18世紀の書簡体小説から、ロマンティズムを経て、20世紀のモダニズム小説にいたるまで、どのように発展してきたかを、主に小説技法の点から学ぶ。イギリス文学史における主な時代区分ごとの作品の傾向や時代思潮を解説した後、主要と思われる作品を1作品ないしは2作品とりあげ、作品および作家研究を行う。また英文学の代表作を学修者用に書き直した、多読用図書の読解を通して、翻訳ではなく英語による作品理解と英語力の修得をする。</p>
音楽産業論	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、ポピュラー音楽産業をテーマに、権利ビジネスの仕組みと基礎知識について講義する。特に、技術の進歩が産業にどう影響を与えるか、「ハード」と「ソフト」の両面から考察する。受講生は、音楽、とりわけポピュラーミュージック業界を「産業」と捉え直し、BLTC=B(ビジネス)・L(Law=法律)・T(テクノロジー)・C(クリエイティブ)の4つの切り口からの理解を行う。併せて、音楽著作権と原盤ビジネス(ミュージシャンをとりまく利権団体とリクープの仕組み)についての実例から、知識の修得と理解を深める。</p>
観光企業論	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、旅行業に関わる関連企業等の経営・営業戦略について講義する。観光関連企業の実務内容について学修し、「観光企業の仕事」の実際について修得する。具体的には、旅行業の現況と経営戦略、添乗業務、会員制リゾートホテル、地域へのインバウンド誘致、テーマパークのマーケティング戦略、航空会社の営業戦略とグランドスタッフ、観光協会の業務、DMOの役割と業務、JRの観光開発、土産物開発、都市観光と地域活性化、日本の旅館文化等の視点からそれぞれの業務について理解を深める。</p>
観光交通論	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、観光と交通の関係を理解し、交通の歴史や特徴を概観した上で、現在の観光における観光交通の現状と将来へ向けての課題を学ぶ。観光交通の概念、観光施設や観光地と交通の関わり、観光交通産業の種類、特徴、ビジネスモデルとその現状、サービスのあり方なども含めたマーケティングなどについて学ぶ。合わせて、インバウンド観光における観光交通、シェアリング・エコノミーと観光交通、観光地の二次交通、観光車両の乗り入れ規制、MaaSなどの地域社会と観光交通の課題について、さらにヨーロッパのLRTや自転車を利用したまちづくり、航空会社のカーボンオフセットなど観光交通と環境問題についても学ぶ。</p>
観光とホスピタリティの心理学	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では以下3点を重点的に講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①なぜ人は観光をするのか。 ②どのような観光商品を購入したいと考えるのか。 ③観光をしている時の人の心理状態はどのようなものか。 <p>観光という社会的かつ消費的な行動、また観光者のさまざまな観光行動について、社会心理学を基本にして社会学なども援用しつつ、心理学の視点から「観光」にアプローチする。この授業を通して、心理学が社会の事象や個人の行動をいかにして分類したり測定したり理論化したりするかを具体的に学ぶことができる。観光についての概念、簡単な歴史や分類、これらを概観した後、旅行者の観光地の選択プロセスや選択要因の分析、観光に対する満足度の分析などを解説する。</p>
韓国語検定講座a	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、韓国語初級レベルの受講生が、韓国語検定試験を取得するための講義を行う。まず、日本語を母語とする受講生を対象に、</p> <ol style="list-style-type: none"> ①「ハングル検定試験の初級(5-4級)」(ハングル能力検定協会主催) ②「TOPIK I (1-2級)」(韓国教育省認定・主催) <p>の合格を目指す。講義では、初級レベルの読む・書く・聞く・話すなどの総合的能力を定着させるとともに、過去問や模擬問題を解きながら出題傾向と出題形式を把握し、本試験に備えていく。また、副教材として初級単語800を用い、合格に必要な語彙力を修得する。</p>

授業科目の名称	講義等の内容
韓国語検定講座b	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、韓国語中級レベルの受講生が、韓国語検定試験を取得するための講義を行う。まず、日本語を母語とする受講生を対象に、</p> <p>①「ハングル検定試験の中級(3級)」(ハングル能力検定協会主催)</p> <p>②「TOPIK II (3-4級)」(韓国教育省認定・主催)</p> <p>の合格を目指す。講義では、試験に出題される「聴き取り」・「作文」・「読解」の全ての項目に対し、パターンを分析・理解・応用の上で、解答力を取得する。また、副教材として中級単語1800を用い、合格に必要な語彙力を修得する。</p>
韓国語コミュニケーション1	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、はじめて韓国語を学修する学生を対象とした初修学修者向けの入門クラスである。テキストを用い、以下を体得する。</p> <p>①韓国語の文字(ハングル)の仕組みを正確に理解する。</p> <p>②母音・子音・終音(パッチム)・発音の変化の学修を重ね読み書きができるようになる。</p> <p>③基礎的な文法「～ですか/です」「～ますか/ます」の表現や過去形表現を修得する。</p> <p>④基礎的な文法と文型を使い簡単な挨拶や自己紹介等の初歩的の日常会話を修得する。</p> <p>⑤ペアワーク・グループワークで学んだ表現を使ったコミュニケーション力を高める。</p> <p>語彙レベルは、韓国語能力試験(TOPIK)初級(1級)、ハングル能力検定試験5級程度とする。</p>
韓国語コミュニケーション2	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、初修学修者向けのクラスとして、入門クラスの「韓国語コミュニケーション1」で、韓国語の文字の仕組みを理解し、読み書きができるようになってきていることを前提として展開する。テキストに従い、各課における語彙の学修とともに、初歩的な日常会話ができる基礎的な文法と文型を中心に学ぶ。多数の例文を用いながら反復的に文型練習を行い、会話の中で学修した文法項目をしっかり使いこなせるように取り組む。ペアワーク・グループワークを通して、様々な表現を身につけることで韓国語コミュニケーション能力を高めていく。レベルとしては、韓国語能力試験(TOPIK)初級(1級・2級)、ハングル能力検定試験5級程度を修得する。</p>
韓国語コミュニケーション3	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、「韓国語コミュニケーション1」と「韓国語コミュニケーション2」で学修した基礎知識を基盤に表現力を定着させ、初級から中級への橋渡しをおこなう。テキストに沿って、各課における語彙の学修とともに、中級レベルの実用的な文法表現を学修する。多数の例文を用いながら反復的に文型練習を行い、学修した文法項目を活用できるようになるための講義を行う。ペアワーク・グループワークを通して、様々な表現を身につけることで韓国語コミュニケーション能力を高めていく。レベルとしては、韓国語能力試験(TOPIK)初級1級、2級、ハングル能力検定5級、4級レベルの語彙力と表現力を修得する。</p>
韓国語コミュニケーション4	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、「韓国語コミュニケーション3」に引き続き、中級レベルから上級レベルへのステップアップを目標に、授業の中で文章の正確な読解力と表現力、会話運用力など実践で活かせる総合的な韓国語力を高めるための講義を行う。使用するテキストにおける各課の新出語彙、文法の理解と本文のダイアログをベースに、会話練習、語彙の置き換え練習、リスニング問題、作文問題などを通して、様々な状況で実際に使える表現を修得する。</p>
韓国語実用会話1	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、「韓国語1」と「韓国語2」で学修した成果をふまえ、実際の場面で使いこなすための会話練習を中心とする講義を行う。「韓国語1・2」で修得した最も基礎的な文法である体言と用言の肯定文と否定文(「～です・～ではありません」「～ます・～ません」)、現在形と過去形、存在詞(ある・いる)、漢数詞などを用いた文型を使いこなしながら、流暢な会話力を修得する。ペアワークとグループワークを通して、自己紹介、位置、日付、電話番号、買い物、予定、過去の出来事などについて会話できるように練習する。とっさの場面でも対応可能な高いコミュニケーション力を学ぶ。</p>
韓国語実用会話2	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、「韓国語1」と「韓国語2」で学修した表現を汎用的に活用するための会話練習を実施する。上記科目で修得した固有数詞、勧誘、願望、尊敬、許可、禁止の文型を使いながら、流暢な会話力を修得する。ペアワークとグループワークを通して、時刻、依頼、提案、許可、計画についてなどの諸事項を軸として、買い物、注文、病院などの場面での会話ができるようにコミュニケーション力を高め、十分なコミュニケーションが取れる力を修得する。</p>
韓国語で日本案内	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、韓国から日本を訪れる方々を迎え入れ、観光案内することを想定し、空港、駅、ホテル、飲食店、観光地などの場所で、相手の意向を尋ね、要求を理解し、それに応えることができる表現などを学修する。毎回、案内する場所とシチュエーションを具体的に設定した上で、想定される状況に最も適した表現を中心に学ぶ。基本的な観光用語や表現のみならず、日本の社会や文化についても分かりやすく説明するなど、おもてなしができる韓国語の実践会話や応用会話にもチャレンジする。自分の考えを述べ、日本文化について伝えるとともに、相手のことを理解することで、より円滑なコミュニケーション力を修得する。</p>
韓国語ビジネス1	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、基本的に初級または中級レベルの課程を修得した学生を受講生として、接客のための敬語表現を使いこなすフォーマルな実用会話能力を修得するための講義を行う。挨拶から飲食、販売、宿泊そしてレジャーまでのビジネス・シーンに対応するために、あらゆる接客現場を想定したフレーズを利用し、現場ですぐ役に立つよう関連語彙・表現などを中心に学修する。さらに、お客様からの質問、呼びかけ、要求などの状況に応じて柔軟に対応でき、伝えたい内容を自分の言葉で表現できるレベルまで、コミュニケーション力を高める。</p>
韓国語ビジネス2	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、「韓国語ビジネス1」を修得した学生、または中級レベルとそれ以上の学生を受講生として、敬語表現を用いたフォーマルなビジネス文書の作成能力を修得し、ビジネス現場で対応できる実用性の高いコミュニケーション力を身につけるための講義を行う。業務電話、メールやFAX、議事録、報告書、稟議書などの書類作成について理解し、業務遂行に必要な文章力向上のための練習をおこなう。特に日本語の敬語は相対敬語であるが、韓国語の敬語は絶対敬語であることに留意し、ビジネスの現場でのやり取りには敬語表現が必要不可欠である点に注意しながら適切に対応する方法を学ぶ。適切なビジネス文書の作成、ビジネス関連の語彙や表現の修得、聞き手が必要とする情報を正確に伝達できる高度なコミュニケーション力の涵養を行う。</p>

授業科目の名称	講義等の内容
基礎演習	<p>本科目は演習科目である。</p> <p>本科目では、所属ゼミナールの担当者が提示したテーマに従い授業を展開する。「専門演習」へ向けて必要な知識やスキル等の修得を目標とする。データ収集や分析やディスカッションを通して「大学入門ゼミ」で体得した「社会人基礎力」の3能力を深化させていく。解の無い課題やグローバルな課題等の解決に取り組み、国際社会を意識しながらグローバル・ローカル・パーソナルな視点から分析力を向上させる。本科目は「B汎用的技能、C態度・志向性、D総合的な学修経験と創造的思考力」の3項目の伸長を行い「専門演習1a」に繋げていく。</p>
キャラクター論	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、ルネッサンスに端を発する伝統的なメインカルチャーに対して、大衆が作り出してきたサブカルチャーの中から、「キャラクター」に焦点を当て講義する。「キャラクター大国」であり続けてきた日本では、人々のコミュニケーションにキャラクターは欠かせない存在である。日本独自のキャラクター文化はどう生まれ、世界に出て行くのか。グローバル展開している海外キャラクターの例も取り上げ、国産キャラクターとの比較・考察を行う。ポップカルチャーには、いま流行っているもの・これからヒットしそうなもの・成功や失敗から得られた教訓がたくさん隠されている。これまでの歴史を学ぶことは、常に新しいものを生み出すことにつながる。歴史的経緯やメディアとの結びつきから捉え直し、社会学的アプローチで分析をする。併せて、アナログからデジタルへの技術変化におけるメディアとコンテンツへの影響を理解する。</p>
グローバル・イシュー	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、マスメディア、特に新聞、放送報道に焦点をあて、国境を越えたグローバルな課題を考察し、その成立過程を理解することで今後の展開、対応について講義する。グローバリゼーションの広がりによって人、モノ、金、サービス、情報が国境を越えて行き交う一方で、温暖化や人口問題、資源をめぐる紛争は人類的課題となっている。それらについての国内外の報道を手掛かりに具体的な事例を取りあげ、原因を歴史的に分析し解説することで解決に向けた取り組みへの理解と学びを修得する。</p>
グローバル・ガバナンス論	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、一国のみでは解決できないグローバルな広がりを持った諸問題をいかに多国間の協力によって解決し、ガバナンスを成立させていくのかという問題を講義する。現代国際社会において、一国のみでは解決できない問題は、安全保障、経済、環境、人権、移民・難民など、さまざまな分野で見つけることができる。それらの問題は、一国のみでは解決できない以上、多国間の協力によって解決するしかない。授業では、その多国間協力を実現するにはどのような条件が必要で、それがどれほど難しいことなのかについて考察する。その際、国家だけではなく、国連などの国際機関やNGOなどの多様なアクターの果たす役割についても学ぶ。</p>
グローバル・ディスカバリー	<p>本科目は講義科目である。本科目では、国際コミュニケーション学科での4年間の学びの起点として、グローバル社会に対する知的好奇心を広げるための講義を行う。学生たちの目を世界へと向けさせ、学生生活の中で留学などの体験を促すべく、多様な観点からさまざまな国際的事象を取り上げ、世界の国々の社会・文化への理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(7 マーク・シーハン/2回) 北米の社会・文化の理解と多文化主義</p> <p>(2 大野茂/1回) 日本のサブカルチャーへの国際的関心について</p> <p>(15 柴田正義/2回) ユーラシア地域の社会・文化の理解</p> <p>(16 杉本匡史/1回) 心理学からみる東西文化差について</p> <p>(8 杉村醇子/2回) イギリスの社会・文化の理解とイギリス文学の世界</p> <p>(10 陳力/2回) 中国の社会・文化の理解と日中都市文化差</p> <p>(9 曹美庚/2回) 韓国の社会・文化の理解と非言語コミュニケーションについて</p> <p>(14 藤野寛之/2回) 児童文学作品の誕生秘話に見る欧米の社会・文化の理解</p> <p>(12 永田拓治/1回) 台湾の社会・文化の理解と漢字を通じた文化交流史</p>
Kpopとドラマで学ぶ韓国語	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、韓国語の入門クラス「韓国語1」で、文字・発音・基礎文法を修得した初修学修者を受講生として、リスニングとシャドーイングをおこなう。日本語と韓国語では発声方法や喉、舌の使い方が違う為、微妙な発音の違いが表現できなかったり、聞きとれない事が多い。これを克服するために、日本でもよく知られているKpopのサビの部分を中心に、リスニングとシャドーイングをおこなう。併せて、歌詞に使われた簡単な文型も学修する。また、ドラマの一場面を通して、自己紹介や趣味など日常生活に関連する決まり文句を身につけることで、韓国の文化にもふれる。発音の基本と抑揚、発音の変化の決まりなどを知り、ネイティブに近い韓国語発音で会話ができるようになるための基盤を修得する。</p>
現代アメリカ文化論	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、歴史的知識を踏まえて、アメリカを基軸として、世界に広がる英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化を理解することを目的とした講義を行う。発表やグループ討議を行うことで、実際に英語を使い、将来英語を教える際に、単なる語学としての英語ではなく、文化の中で使われている生きた英語を教えることが出来るような知識の修得を目指す。併せて、英語圏であり、英語教育という点からも日本にとって身近な国であるアメリカの歴史や社会状況についての理解を深める。</p>
現代社会論	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、グローバル化や情報化によって大きな変化を求められている現代日本社会について、社会学の概念や考え方、あるいはさまざまな統計データを使って分析する方法について講義する。経済のグローバル化やIT技術の発展による情報社会化によって、現代日本ではかつてないほど人々の価値観や行動の多様化がもたらされている。それらについてのさまざまなデータが存在しているが、それらから何らかの意味を読み取り、因果関係を見出すのがとても難しくなっている。この授業では、社会学というツールを使って、複雑化する現代日本社会に焦点を当て、分析方法を修得する。</p>
航空産業論	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、エアライン業界について全般的に学ぶ。航空業界の歴史を通じてその役割と変遷を理解する事により航空産業の現状と将来の展望を理解する事が出来る。また、新しい経営形態であるLCCの出現や自動化の進む航空産業の将来を検証する。航空産業の歴史の学修によりその特性を学び、航空産業が果たした役割を理解し、新たな時代に突入した航空業界の課題および問題点を検証する。さらに、これからの航空産業の役割を理解する。</p>
広告文化論	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、商品の魅力や性能を人々に伝える広告のポイントについて講義する。その手法、効果と限界、ブランド構築とクリエイティブ表現の関係、さらには広告が担ってきた文化的な意義について考察する。また、CM・広告だけを抜き出してクリエイティブ表現の分析をしても、本当の意味での広告の機能を理解するには不十分であり、広告はそれ単独だけでは理解できない。「掲載媒体」や「露出方法」が重要となる。したがって、広告が掲載されるメディアの現状・社会的役割・ビジネス構造についても併せて学ぶ。何よりも広告は「実学」の最たるものであることから自らの実体験に置き換えて考える思考力を修得する。</p>

授業科目の名称	講義等の内容
国際学への招待	本科目は、講義科目である。 本科目では、国際学部での学びを始めるにあたり「国際学」の基礎的な知識を修得し、現代的諸問題の中から抽出されるテーマと知識を拡充するための講義を行う。(オムニバス方式/全15回) (6 権隆/2回) 授業紹介・振り返り・言語文化 (3 岡本芳和/1回) 言語文化 (5 神尾登喜子/1回) 日本の文化理解 (55 Caldwell,Matthew/1回) 多文化理解 (32 中山恵利子/1回) 多文化理解 (1 井上裕司/1回) 国際政治と国際経済 (31 段家誠/1回) 国際秩序 (57 長谷川明彦/1回) 国際経済 (17 武藤麻美/1回) 各論 日本と欧米 (41 松村嘉久/1回) 各論 アジア (11 坪井兵輔/1回) 各論 ヨーロッパ (13 橋本英司/1回) 各論 ヨーロッパ (27 塩路有子/1回) 各論 ヨーロッパ (64 渡辺和之/1回) 各論 アジア
国際関係学	本科目は、講義科目である。 本科目では、グローバル・イシューについて講義する。それらへの問題意識を持ち、受講生自身が当事者であることを認識する。私たちは日本で生活を営んでいるが、日本は世界の国々と共に支え合い、行動を起こさなければ、現代の社会経済がうまく回らないだけでなく、当たり前になってきた自然環境の豊かさを享受することはおろか、自然からの警告を受け続けることになる。そうした状況の到来への理解を深めることで、未来へ向けた行動指針について修得する。
国際関係入門	本科目は、講義科目である。 本科目では、国際関係を学ぶ上で必須となる知識を身につけた上で、国際関係を分析する基礎について講義する。国際関係の基礎知識としては、国家の成り立ちと国家主権、近代国際政治史、戦争発生メカニズム、国際政治経済、開発途上国の経済開発といった今後の上級の科目へとつながっていく知識を身につける。そのため国際関係のなかで発生するさまざまな出来事の原因についての仮説を導く3つの分析視角を学ぶ。国家、国際制度、さらに国内政治にそれぞれ注目する3つの分析視角である。この3つの分析視角を身につけることで、さらに上級の科目と合わせて仮説検証型の科学的分析方法で国際関係を分析するスキルを修得する。
国際協力論	本科目は、講義科目である。 本科目では、今日の世界が抱える、経済・財政・金融・貿易問題、南北問題、環境と開発・貧困・難民問題等、様々な課題と、これらの諸問題解決への試みがどのような枠組みで行われているか、それらに関連して生じる問題について明らかにすることを目的として講義を行う。講義で扱う、政府開発援助(ODA)問題、世界銀行の組織と事例、国際通貨基金、構造調整融資の問題、中国の「一帯一路」と「債務のワナ」、米中新冷戦、ダム開発の社会と環境への影響、アメリカの食糧援助、緑の革命の功罪、世界銀行のインスペクション・パネル制度等への理解を深める。
国際政治経済論	本科目は、講義科目である。 本科目では、経済活動がもたらす不均衡を政治的に是正するためさまざまなアクターが動かす政治過程を分析していく。特に注目するのは、貿易政策、途上国の開発政策、多国籍企業の管理のための多国間協力、国際金融政策の4つの分野である。それぞれの分野で重視するのは、市場競争の結果、勝者と敗者の間に生まれた不均衡を、市場ではなく政治的に是正しようとする経済アクターたちの動きである。例えば、企業や利益団体が経済的利益という観点からどのような貿易政策や金融政策を望み政治過程に関わり政策が決定されるのか。あるいは、経常収支の不均衡に陥った貿易赤字国が貿易黒字国に何を望み国家間交渉をするのかといった内容である。それによって政治と経済の相互作用のなかで、どのように政策決定がなされるのかについて分析していく。
国際ビジネス論	本科目は、講義科目である。 本科目では、国際的な規模で事業活動を行っている企業について、どのように国際ビジネスを展開しているのかについて講義する。講義では、事例研究を中心に国際ビジネスについての理解を深めていく。最初に、地球規模で統一的に展開するグローバル型と現地に即した展開をするマルチドメスティック型の国際ビジネスにおける2つの違いを理解し、続いてトランスナショナルやメタナショナルといった応用形態を学ぶ。受講生は、21世紀の「国際化」を理解する上で必須となる基礎知識を修得する。
国際平和論	本科目は、講義科目である。 本科目では、第2次世界大戦以後の戦争や紛争について、その状況や原因および背景などについてテーマや事例をもとに講義する。日本を取り巻く国際社会では、戦争や紛争、テロ等が多発している。具体的には、世界軍事情勢、9.11事件、アフガニスタン戦争とイラク戦争、アルカイダとイスラム国によるテロ事件、民間軍事会社、国連平和維持活動(PKO)、ルワンダ虐殺、アフリカ紛争ダイヤモンド、少年兵、ナチス第三帝国興亡、本土大空襲、沖縄戦、太平洋戦争、中東問題、米中新冷戦、台湾海峡危機等についての理解を深める。
コミュニケーションスキル実習	本科目は、講義科目である。 本科目では、人々とのコミュニケーションをスムーズに行うために必要な方法や知識を実践的に修得するための講義を行う。グループ内での自己開示を通して、自己理解及び他者理解を深めるとともに、グループ内でコンセンサスに至る過程について体験的に学修することで、対人関係を円滑にしていく上で必要なコミュニケーションスキルを養う。具体的には、多様なコミュニケーションの場面を想定し、他者との意見の相違や価値観の相違が存在することに気づかせ、互いに調整しながらグループ内で合意にたどり着くトレーニングを行う。また、自己の開示と他者の受容を促す過程でコミュニケーションスキルのさらなる向上を図る。
産業・組織心理学	本科目は、講義科目である。 本科目では、企業人のメンタルヘルスとキャリアデザインの現状を理解するための講義を行う。自らの働くモチベーションを考えるとともに、リーダーシップのあり方、メンタルコントロール方法の基礎並びにキャリアデザインの実践的な方法を修得する。実社会で働く企業人における「自立」とはなにか、そして働くうえで最も重要な「モチベーション」、組織が望む「リーダーシップ」とはどういうものかを学び、現代社会におけるストレスとメンタルヘルスの現状と対策、さらに人生の生き方を問うキャリアデザインについても考える。
資格ビジネス英語1	本科目は、講義科目である。 本科目では、リスニング、リーディングを主として基本的な英語力を身につけながら、日常会話、およびビジネスシーンで使用する英語の語彙、表現を学び、TOEIC L&R 400点レベルの修得をする。TOEIC初心者を対象に、TOEIC問題の構成や内容について紹介する。また、各パートの練習を繰り返し解くことで、実際の試験問題を通して、必要なスキルを確認しながら、英語力を向上させていく。各自で設定する目標スコアに向かって学修計画を立て、自律的に学ぶ態度やスキルも培う。

授業科目の名称	講義等の内容
資格ビジネス英語2	本科目は、講義科目である。 本科目では、基礎的なリスニング・リーディング力を強化しつつ、グローバルなビジネスシーンで用いられる英語の語彙、表現を理解し、身につける能力を修得する。またビジネスに関する知識を学び、英語コミュニケーション能力を高めるとともに、TOEIC L&R 500点レベルの英語力を修得する。また、各パートの練習を繰り返し解くことで、英語力向上のためのPDCAを受講生各自が確認しながら、実際の試験問題に慣れると共に、早く解けるようになるための学びを蓄積していく。授業で一斉に学び、さらに各自で設定する目標スコアに向かって学修計画を立て、自律的に学ぶ態度やスキルも培う。
資格ビジネス英語3	本科目は、講義科目である。 本科目では、これまで培った基礎英語力をベースに、日常会話を含め、グローバルなビジネスシーンで用いられる会話ストラテジーの理解を向上させ、リスニングスキルを磨く。また、TOEIC問題に対して、迅速かつ正確に解答できるよう、文法知識の定着を目指す。また、多くの英語のビジネス文書を読むことでビジネス文書の読解力を向上させる。TOEIC L&R 600点以上のレベルに到達するために、各自で設定する目標スコアに向かって学修計画を立て、自律的に学ぶ態度やスキルも取得する。
資格ビジネス英語4	本科目は、講義科目である。 本科目では、グローバルなビジネスシーンで用いられる高度な英語力を駆使できるようになることを目指す。ビジネスに関する語彙量、表現についての知識を増やし、会話、オンライン等で行われるインタラクションに慣れ、英語コミュニケーション能力を総合的に向上する。また、多くの英語のビジネス文書等を迅速かつ正確に読み取る練習を行い、結果としてTOEICのスコアアップを目指す。TOEIC L&R 700点以上のレベルに到達するために、自律的・継続的な学びの態度とスキルも取得する。
自己理解心理学入門	本科目は、講義科目である。 本科目では、「自分のこころ」の理解を深めるための講義を行う。講義と共に、自己理解を深めるための様々なワークを行う。そのなかで、自己像の把握や自分の話し方や聴き方のクセ、自分の持つ価値観やステレオタイプはどのようなものかなど、自分を客観的に把握する機会を通して「自分のこころ」に対する理解を深めていく。「他者」を知る・理解するためには、「自己」を先ず理解し知る必要があることを学ぶ。受講生は、他者の意見や考えを聞いて物事への理解や判断を行う際に、自分自身のものの見方や感じ方・考え方を判断の基準（認知の枠組み）として用いていることを学ぶ。
社会心理学	本科目は、講義科目である。 本科目では、自己や他者の認知、対人コミュニケーション、ストレスと精神的健康、集団力学などを学び、社会心理学の主要な知見を知識として修得することを目的とした講義を行う。前半では、対人関係理解に必要なコミュニケーションや恋愛心理学を扱う。後半では、社会で差別や偏見、排除が生じる心理的メカニズムの理解を促し、多様な背景を持つ人たちの共生社会実現に向けた意識を高めていくため、集団心理やリーダーシップを扱う。
集客産業施設運営論	本科目は、講義科目である。 本科目では、テーマパーク事業者を中心に集客産業施設運営事業者の経営戦略・事業運営に関する現況を集客ビジネスの視点から講義を行う。具体的には、集客産業施設運営事業者が独自に有する事業特性（装置産業、労働集約型産業等）を踏まえ、継続的な設備投資・人材マネジメント等の諸課題への対応がいかに重要であり、そこにはいかなる戦略性があるのかを学ぶ。『日米のテーマパーク事業者』を中心に、集客産業施設運営事業者の経営戦略・事業運営に関する基本的な知識を修得する。
宗教と社会	本科目は、講義科目である。 本科目では、社会学の立場から宗教が地域社会や国家社会、あるいは国際社会にどのような影響を及ぼし、政治、経済、生活にどのような結果をもたらしているのかについて講義する。高度に情報化が進み、経済活動のグローバル化が進んだ現代の世界においても、宗教は、依然として社会に大きな影響を及ぼしている。中東ではイスラミック・ステイト（IS）がテロリズムを繰り返し、アメリカではキリスト教原理主義団体が大統領選挙を左右するなど、宗教は、国内の小さな共同体における生活から国際政治に至るまで、現代世界のあらゆる階層において、人々の価値観や行動を方向づける「転軸手」としての役割を果たしているといえる。これらへの理解を深めることで、宗教と社会の相互補完性について学ぶ。
宿泊産業論	本科目は、講義科目である。 本科目では、宿泊ビジネスの事業経営について、施設・設備に多額の投資を必要とする資本集約型産業であると同時に人的サービスの提供を中心とする労働集約型産業でもあることを学ぶと共に、このような産業特性を持った宿泊ビジネスの特徴や経営に関する基本的な知識、仕組みなど、宿泊ビジネスの全体像について理解を深める。また、今日的テーマとして、成熟した旅行市場における宿泊ビジネスの抱える諸課題の解決や顧客志向経営について、サービスマネジメントやマーケティングの視点から考察し、その知識を身に付ける。
消費者の心理	本科目は、講義科目である。 本科目では、購買者としての消費者の視点から、その心理や行動の現状を知るとともに、企業側の商品・サービス提供に関連するマーケティングやビジネス心理学の理論について講義する。その学修をふまえて、現代社会で扱われる商品およびサービスを消費者の視点について、心理的に動向を概観し、企業側におけるビジネス面からの実践的マーケティング及びその理論について修得する。その学びのプロセスとして、ワークシート作成やグループディスカッションを行うことで、消費者心理について考察するスキルを修得する。
情報メディア入門	本科目は、講義科目である。 本科目では、伝統的なメディアである「印刷メディア」から「視聴覚メディア」、情報機器を活用する「電子メディア」まで、できるだけ多種類のメディアの概要を講義する。取りあげる予定のメディアは、図書、雑誌・新聞、視聴覚メディア、電子メディアと多岐にわたる。それぞれのメディアの特性を理解することが、情報リテラシー（情報活用能力）の向上につながる。さらに、関連する法的・制度的枠組みについて概説し、知的財産権についての理解を深める。
心理学研究法	本科目は、講義科目である。 本科目では、人の心や行動に関して科学的に探求する学問である心理学における心の探求の方法、すなわち心理学における科学的な研究方法について講義する。心理学では、目に見えない「心」を測定するために様々な研究の手法が考案されているが、これらを調査研究、実験研究、実践研究に区分して考察を行う。はじめに心理学の研究に取り組む学生を対象に、人の性格や能力や対人関係などに関する心理学的知見が何を根拠に主張されているのか、その根拠は信頼に値するのか、といったことを批判的に検討する力を養う。具体的には、観察法などの質的調査や量的調査の調査研究法、実験の理論と方法による実験心理学的手法、臨床や教育現場の実践研究などに触れ、心理学の成果と俗説を見分ける目を育てる。心理学の研究成果から心理学に関する多様な研究法について学ぶこととし、実際の研究事例も参照しながら授業を進める。

授業科目の名称	講義等の内容
心理統計学1	本科目は、講義科目である。 本科目では、データに対して正しい分析方法を修得し、統計リテラシーを身につけることを主眼に講義を行う。ニュースで提示される「犯罪統計」や企業が打ち出す「アンケート結果」など、これからの情報社会を生きていくために、データを正しく理解出来ることが重要である。これらを理解するには「統計学」の知識が極めて重要となってくる。受講生は、調査を行う際に用意すべき項目や分析方法についての統計知識を学ぶと共に、心理統計学に必要な基礎的知識を修得する。
接客のための中国語	本科目は、講義科目である。 本科目では、接客に重点を置いていた中国語を学修する。 具体的には、小売・飲食・宿泊施設・交通機関等の業種ごとに必要なフレーズを中心に構成する。教員からの一方通行ではなく、受講生相互にロールプレイを行い実践的な語学力を身につけることを目標とする。中国語圏の人々とコミュニケーションをとるために必要な地理的・文化的な知識もあわせて学修する。語学力とともに、コミュニケーションに必要な中国・台湾についての知識の獲得も目指す。
専門演習1a	本科目は演習科目である。 本科目では、「専門演習アプローチ(ゼミナールパート)・基礎演習」と積み上げてきた知識やスキルを基盤として、そのさらなるスキルアップを行う。専門演習担当者が専門とする分野において蓄積した研究業績をふまえ、ゼミナール学生は担当者の下で専門知識の拡充と、さらなる深い理解へ向けて研究能力の基礎力を涵養するものである。本科目は「B汎用的技能、C態度・志向性、D総合的な学修経験と創造的思考力」の3項目の向上を行い「専門演習1b」に繋げていく。
専門演習1b	本科目は演習科目である。 本科目では、前期科目「専門演習1a」で体得した課題へのアプローチに関する諸手法をふまえて、分析力・ディスカッション力・伝達力・質疑応答力・ピアレスポンス力等「専門演習1a・b」において必須とする各能力の育成と深化に向けて、具体的な課題及びテーマへ取り組む。受講生は、収集した情報を精緻に分析する能力と共に、その伝達手法や言語化力の向上を意識しながら学びのPDCAを展開する。本科目は「B汎用的技能、C態度・志向性、D総合的な学修経験と創造的思考力」の3項目のさらなる向上と共に「専門演習2a」に繋げていく。
専門演習2a	本科目は演習科目である。 本科目では、「専門演習1a・b」で体得した学修スキルを使いながら、国際コミュニケーション学科が求めるスキルアップを具体的な課題及びテーマに取り組む。特に3年次「専門演習1a・b」を通して、学生個々が決定したテーマへ向けて情報収集及び分析を行い、演習時間においてプレゼンテーションを実施する。聴き手は、プレゼン内容に対してプレゼン実施者が、次への展開が出来る質問を行う。本科目は「B汎用的技能、C態度・志向性、D総合的な学修経験と創造的思考力」の3項目の向上を行い「専門演習2b」に繋げていく。
専門演習2b	本科目は演習科目である。 本科目では、個人・グループを問わず、本学科設置の各科目及び演習諸科目(「大学入門ゼミa・b」「専門演習アプローチ」「基礎演習」「専門演習1a・b」「専門演習2a」)を通して蓄積した知識や、体得したスキルをもって「卒業研究」を作成する。本学部での4年間の学修成果として、学位を授与するに相応しい内容となるよう個別指導を実施する。したがって本科目は、本学部のディプロマ・ポリシーである「A知識・理解、B汎用的技能、C態度・志向性、D総合的な学修経験と創造的思考力」に明示する全項目を具現化する必修科目として位置づけている。
専門演習アプローチ	本科目は演習科目である。本科目では、全15回のうち第1回～6回は専門演習担当者が自ゼミでの学びや活動実績等を交代で講義する。(1回)第7回以降は担当者が専門演習への導入教育を実施する。(9回)本科目の演習パートでは学部のディプロマ・ポリシーをふまえ、「B汎用的技能、C態度・志向性、D総合的な学修経験と創造的思考力」の3項目を修得し、後期「基礎演習」に繋げていく。(オムニバス方式/全15回)
総合日本語a	本科目は、講義科目である。 本科目では、日本語能力試験N1合格を目的の一つとする学生が、上級レベルの読解力、また聴解力と発話力、さらに語彙力、文法力を身につけることを目指す。読解力・文法力に関しては、基礎力を確認した上で、様々な文体に触れ、文章の構造を読み取る、より高い読解力を身に付けることを目指す。聴解力においても、話の流れ(構成)を聞き取れるようになることを目指す。語彙を増やすためのテストは毎回行う。聴解のための耳をつくるためにも発音・発話練習を行う。
総合日本語b	本科目は、講義科目である。 本科目では、「総合日本語a」を学んだ学生が、日本語能力試験N1合格を目的の一つとして「総合日本語a」の内容を引き続き学ぶ。日本語能力試験N1の教材を用いて、読解、文法・語彙、聴解の力をつけることを目指す。また、聴解のための耳をつくるために、発音・発話練習も継続する。内容が多岐にわたるため、一つ一つにかかる時間は少なくなるが、丁寧に学び、力を伸ばす。N1受検後は、丁寧に話す練習を行う。
大学入門ゼミa	本科目は、演習科目である。 本科目では、少人数クラス編成を基本に、「大学での学修とは何か」という基本的事項を把握し、本学科における学修体系を理解する。併せて、学生生活の充実に必要な知識(大学施設・学内諸制度等)や、学修スキル(教養・各種課題への取り組み・情報収集能力・言語化能力等)を体得する。①何を学び、②何を身に付け、③何が出来ようになるか。大学での学修の基本となるこの3点を意識しながら、主体的な学びとその経験値を積み上げていく。本科目は「B汎用的技能、C態度・志向性」の2項目の伸長を行い、「大学入門ゼミb」に繋げていく。
大学入門ゼミb	本科目は演習科目である。 本科目では、「大学入門ゼミa」で体得した大学生としての基礎的な学修スキルをふまえ、具体的なテーマや課題に取り組むと共にチームでの共同力や持続的思考力や能力開発を行う。併せて、調査力・情報共有力・ディスカッション力等のスキルを体得し、①自分の考えを人前で発表する上での基本的な方法及び手法を学び(INPUT)、②的確な言語化力(OUTPUT)を身に付ける。特に「学びのPDCA」を意識しながら、「修正力」の修得が出来るようにする。本科目は「B汎用的技能、C態度・志向性」の2項目のスキルアップを達成し「専門演習アプローチ」に繋げていく。
対人コミュニケーション心理学	本科目は、講義科目である。 本科目では、対人コミュニケーションについての理解を深めるための講義を行う。学業生活や対人関係、就職活動などの日常のコミュニケーション場面で活用できるようになることを狙いの一つとする。対人コミュニケーションに関する基礎的概念や理論について、社会心理学や臨床心理学などの知見をもとに解説する。適宜、ワークも用いながら、自己のコミュニケーション・スキルについても検討する機会を設ける。前半は対人コミュニケーションに関する基礎的知識を修得する内容とし、後半は現実場面でも利用できる応用的内容を扱う。

授業科目の名称	講義等の内容
第二言語修得概論	本科目は、講義科目である。 本科目では、第二言語修得に関する理論と実践を講義する。第二言語修得研究を概観し、言語修得理論(theory)と教育現場でどのようにその理論が実践(practice)されているのかを映像資料等を用いて学修する。さらに、理解を深めるため、また教育現場で十分な説明ができるように、「教室での言語修得」、「バイリンガリズム」、「学修者言語」、「学修者要因」などのトピックに関して、プレゼンテーションを行う。
台湾華語	本科目は、講義科目である。 本科目では、授業や日常の挨拶・会話で使う簡単な文章の会話学修から入ることで、まず外国語学修に対する抵抗感を軽減する。また、繁体字に対する拒否感を持たせないためにも、日本の漢字との相違点・類似点、基本的な旁(つくり)の学修により、個々に繁体字を覚えるのではなく、体系的かつ効率的な繁体字修得を目指す。発音練習の際には、基礎の会話で必要な単語、学生が興味を持てる単語や、必要最低限の数詞・量詞を意識的に用いることで、文法学修に先立ち、耳と口とを台湾華語に慣れさせ、中国語作文・読解に必要な重要表現を修得させる。あわせて、台湾の社会や文化についても情報収集を行い、異文化理解を深める。
多文化社会論	本科目は、講義科目である。 本科目では、いかに多文化共生社会を作り上げていくのか、その条件について講義する。この授業で注目するのは、社会的対立の背景にあるのが、本来は経済的格差であるのに文化的差異だけが強調されてしまうような場合である。単に異文化の理解が進めば多文化共生が成立するわけではなく、政治・経済制度などさまざまな条件が必要であることを示していく。ひとつの社会に多様な文化が存在するときに発生する文化的葛藤は、ヘイトクライム、ヘイトスピーチ、レイシズム、場合によっては内戦などの問題を引き起こすことがある。それらを乗り越え、多様な文化が共生する社会を構築するためには、単なる異文化理解だけでは不十分であることへの理解を深める。
多様性の文化論	本科目は、講義科目である。 本科目では、世界の冠婚葬祭の儀礼や儀式を考察することで、文化の普遍性と多様性について講義する。冠婚葬祭の中でも、特に、結婚風習(婚礼)や祖先を祀る文化(葬祭)を中心テーマとした儀式儀礼の風習について考察する。学修者主導型の事前調査学修を通じて、世界各地の婚礼や葬祭の儀式に含まれている文化的価値観を比較することで、その普遍性と多様性について分析する視角を身につける。各々の文化の儀式儀礼が成立した経緯や変容していく過程を調べることから、文化が持つ普遍性と多様性についての理解を深め、偏見やステレオタイプに偏ることなく客観的に文化を理解する力を修得する。
知覚・認知心理学	本科目は、講義科目である。 本科目では、人間の認知機能のしくみを研究する心理学の一分野である知覚心理学や認知心理学の基礎的な概念を知り、専門的知識を修得し、物事を科学的に捉える能力を養う。実験や観察に基づくこれまでの研究知見を紹介し、認知機能に関する研究法および理論や認知モデルを解説する。感覚や知覚、記憶や思考、意思決定などの人間の情報処理過程について、そのメカニズムを理解する。また、感情が人々の知覚・認知にどのような影響を及ぼすのかについても講義する。
中国・アジアビジネス論	本科目は、講義科目である。 本科目では、下記に掲げる当該地域の近代国民国家の成立過程と現代の経済発展やビジネス環境の特質との関係を紹介し、成長変化のメカニズムについて講義する。併せて日系企業の当該地域への進出状況と問題点を分析し、これからの経営戦略について理解を深める。中国・アジア経済の成長にもない、日本企業をはじめ、アジアを「製造基地から市場へ」とみなして投資拡大してきた。また、2022年からアセアンと日中韓を含めた自由貿易を推進するRCEPをスタートし、経済的な結びつきがますます強くなる。この地域は政治・社会制度、文化・宗教も多様に富んでいるため、ここのビジネス環境や経済社会と企業経営の特質について理解する。
中国語検定講座a	本科目は、講義科目である。 本科目では、資格取得のために必要な単語・聴力・文法をバランスよく取り上げる。具体的には、HSK(漢語水平考査)3・4級、中国語検定試験3・4級検定の過去問題および模擬問題を用い、主要な文法ごとに分類し、実践的な練習・解説を行う。また、模擬テストを実施することで実践的な資格受験の準備を行う。過去問題および模擬問題の解答だけでなく、質疑応答の時間を毎回の授業に設けることで、受講生のレベルを把握しながらに基礎文法力と語彙力を修得する。
中国語検定講座b	本科目は、講義科目である。 本科目では、HSK(漢語水平考査)4・5級、中国語検定3級の試験内容に沿って授業を展開する。具体的には、1500語～2500語前後の単語および生活・学修・仕事などの場面で基本的な文型を修得することで検定試験の合格を目指す。また模擬テストを実施し、実践的な資格受験の準備を行う。過去問題、模擬問題の解答だけでなく、質疑応答の時間を毎回の授業に設けることで、受講生のレベルを把握しながらに基礎文法力と語彙力を修得する。
中国語コミュニケーション1	本科目は、講義科目である。 本科目では、授業や日常の挨拶・会話で使う簡単な文章の会話学修から入ることで、外国語学修に対する抵抗感を軽減する。発音練習の際には、単なるピンイン練習だけでなく、基礎の中国語会話で必要な単語、学生が興味を持てる単語や、必要最低限の数詞・量詞を意識的に用いることで、文法学修に先立ち、耳と口とを中国語に慣れさせ、中国語作文・読解に必要な重要表現を修得させる。必要に応じて、簡単な疑問構文を用いて、会話形式で発音の練習を行うこともある。また、日本の漢字と異なる簡体字に対する拒否感を持たせないためにも、簡体字の成立過程の説明を行い、常用の漢字の日中での書き方の違いを明示して体系的かつ効率的な簡体字修得を目指す。あわせて、中国の社会や文化についても情報収集を行い、異文化理解を深める。
中国語コミュニケーション2	本科目は、講義科目である。 本科目では、中国語コミュニケーション1に引き続き授業や日常の挨拶・会話で使う簡単な文章の会話学修から入ることで、外国語学修に対する抵抗感を軽減する。また、中国語1で学修した内容を踏まえ、語彙を増やし、より複雑な言語表現能力の獲得を目指す。本科目での到達目標は、商品の説明、ガイドブックの観光案内、注意書き等における読解力、日本のことを伝えられるような会話力、簡単なメールのやり取りができる文書作成能力を身につける。あわせて、中国の社会や文化についても情報収集を行い、異文化理解を深める。
中国語コミュニケーション3	本科目は、講義科目である。 本科目では、初中級レベルの単語と文型(慣用形)を修得することを目標とする。ペアワーク・グループワークを通して、様々な表現を身につけることで実践的な語学運用能力を養う。具体的には、簡単な観光案内・簡単な打ち合わせの通訳ができ、日常生活でよく使われる商品の紹介などができる力を身につける。あわせて、中国語検定4級・HSK(漢語水平考査)3・4級レベルに相当する中国語力を獲得することを目指す。

授業科目の名称	講義等の内容
中国語コミュニケーション4	本科目は、講義科目である。 本科目では、中・上級レベルの中国語を学修する授業である。中級レベルの中国語の学修を終えた学生は、この授業で中・上級レベルの単語と文型を学ぶ。ペアワーク・グループワークを通して、様々な表現を身につけることで会話を中心とした実践的な語学運用能力を養う。具体的には、観光案内、ビジネスシーンにおける打ち合わせの通訳などができる力を修得する。あわせて、中国語検定3級・HSK(漢語水平考試)4・5級相当の語学力を獲得することを目指す。
中国語で日本案内	本科目は、講義科目である。 本科目では、基本的な観光用語を学修した上で、観光地の紹介ができる能力を養成する。発音の正確さは観光案内の基本であることをふまえ、授業では発音練習を実施する。併せて、観光実務での聴解力の重要性に鑑み、観光関係のヒアリング資料を活用し、聴解力を伸ばさせる。交通機関の乗換や、免税店の利用方法などを紹介する場合、説明文が欠かせないことも含め、構文や選択すべき表現方法について実践を意識してロールプレイングを行いながら修得する。
通訳入門	本科目は、講義科目である。 本科目では、英語と日本語の論理構成の違いを意識しながら、日英に通訳する通訳スキルトレーニング(シャドーイング・サイトトランスレーション)を行う。トレーニングを繰り返すことで、英語と日本語を聴き取り、理解し、自分の言葉で発話し、発話内容を確認する力を磨く。通訳に必要なスキルを学ぶほか、英語で日本の案内をしたり、病院、役所といった施設で国際共通語としての英語によって日常生活をサポートするなど、様々なシーンにおいて活用できる通訳の基本について学ぶ。
Debate and Discussion	本科目は、講義科目である。 本科目では、現代社会の様々な領域における日常的な話題(携帯電話、フリーター、結婚、飲酒喫煙、英語学修など)について、現象、背景、その問題・課題におけるメリットとデメリットを把握し、自分の意見を英語で明確に主張できるようになることを目的とする。 以下の3点の内容において知識とスキルの修得を目指す。 ①英語を運用する上での表現を数多く修得する。 ②論理的思考力、批判的思考力を向上させる。 ③統合的で、インタラクティブな英語活動を通じ、英語コミュニケーション力を向上させる。
特殊講義1	本科目は、講義科目である。 本科目では、国際コミュニケーション学科の専門学科科目・4領域にある文化分野・国際関係分野において、特に独立した講義として、現代社会の情勢、変化において、特に重要と考えられるテーマについて取り扱う。当該分野の最新の研究、社会情勢との関連について講義を中心としつつも、学生と教員、学生間での議論などインタラクティブな授業を行うことで、学生の文化分野・国際関係分野に関する理解・知識を促す。
特殊講義2	本科目は、講義科目である。 本科目では、国際コミュニケーション学科の専門学科科目・4領域にあるメディア分野・心理学分野において、特に独立した講義として、現代社会の情勢、変化において、特に重要と考えられるテーマについて取り扱う。当該分野の最新の研究、社会情勢との関連について講義を中心としつつも、学生と教員、学生間での議論などインタラクティブな授業を行うことで、学生のメディア分野・心理学分野に関する理解・知識を促す。
都市文化論1	本科目は、講義科目である。 本科目では、史的カルチャースタディズの視点から、東アジアの都市創成について考察することで、東アジア諸国の文化の普遍性と多様性について講義する。さらに、都市経済学や都市地理学の考えと照らし合わせて学び、人文科学と社会科学の都市創成に対する基本的な考えを修得する。前近代の東アジアの都市創成の中で、コスモロジーによる都市の立地論、社会構造から見る都市空間の形成、学問伝承による都市創成の文化交流は都市文化の重要内容である。東アジアの都城の歴史を通してこれらを講義し、東アジアの独自性と東西都市創成に存在する文化交流による多様性についての理解を深め、寛容的な文化理解力を養う。本講義は視角・セオリー・ケーススタディの順で、教員と受講生、受講生間の意見交換をしながら理解を深める。
都市文化論2	本科目は、講義科目である。 本科目では、ケーススタディとして、ヨーロッパの代表的な文化都市フィレンツェと代表的な芸術保護者メディチ家の関係性を歴史的に講義する。都市がどのような立地に、どのように形成され、どのように発展していくのか。都市発展の経済基盤である毛織物産業、国際商業、金融業を分析しつつ、メディチ家がどのように台頭し、どのように政治権力を握っていくのか。そして権力維持に芸術保護をどのように結びつけていくのか。共和制から君主制への転換期に芸術文化はどのような変容をとげるのか。都市と周辺農村の関係はどのようなものか。政治・経済・社会・文化などあらゆる角度から多面体としての都市を分析し、アジア諸都市との比較史的観点から考察することで、都市の環境をより良いものにする思考方法を修得する。
都市文化論3	本科目は、講義科目である。 本科目では、ケーススタディとして、「天皇の都と都市形成の方法」をキーワードに、古代都市である「都」の空間分析とその全体像を把握するための講義を行う。併せて、古代の都から近代・現代都市の造営理念についても学ぶ。都市は、様々な技術と社会・文化が有機的に融合することで都市の風景を造形するため、政治・経済・土木・建築・庭園等の諸分野と文化の結合方法を学び、日本における都市形成の独自性を理解する。併せて、アジアやヨーロッパとの都市形成の考え方についての差異を把握し、日本における「都(都市)」の設計理念を含めた総合的な知識を修得する。
Topic Studies	本科目は、講義科目である。 本科目では、世界の様々な課題、問題についてのトピックに関する基本的な情報や知識を英文での読み・聞きから、理解できるようになることを目的とする。 特に、持続可能な開発目標について詳しく学び、その達成のための方法を議論する。この他、複雑な課題、問題について理解できるだけの語彙力、聴解力、読解力を身につけ、様々なトピックについて、自分の意見を英語で発信する力(ライティング力、プレゼンテーション力)を向上させる。
トラベル韓国語	本科目は、講義科目である。 本科目では、「韓国語1」を学修済で、韓国語の文字の仕組みを理解し、読み書ができ、基礎的な文型が理解できる学生を受講生として、初歩的な旅行会話をおこなう。空港、ホテル、飲食店、ショップ、公演場、観光地などで多用する表現方法を身につけ、状況に応じた対応ができる実践力を養う。具体的には、毎回異なる場所とシチュエーションを設定し、依頼に応じる、問い合わせる、提案する、許可を求める等の表現を学ぶとともに、値段や時間の表現方法なども学修する。また、ペアワークとグループワークでの会話練習を通じて、旅行先で出会う韓国人とスムーズにコミュニケーションができることを目指す。

授業科目の名称	講義等の内容
ドラマで学ぶ英語	本科目は、講義科目である。 本科目では、英語圏の映像化作品を教材として、主に次の2点の能力を伸ばさせることを目標とする。第一に、ナチュラルスピードで発話される英語のリスニング力を高める。速いスピードや発音の省略などにより、日常の英語会話の理解はしばしば困難となる。授業では、日本語を第一言語とする学修者がつまづきやすい連続音や同化について解説し、実際にディクテーションのタスクに取り組むことで、聴解力を高める。第二に、これまでの学修者用テキストにはあまり見られない、口語特有の英語表現、時には俗語等もとりあげ、理解を深める。作品によってはポリティカル・コレクトネスに配慮した表現も見られ、これらの学修を通して、日常英会話の語彙を増やすと同時に、英語圏における社会・メディアと言語の関係についても学ぶ。
日本語演習a	本科目は、講義科目である。 本科目では、日本語能力試験N1を取得している学生が、日本語を用いたプロジェクトワークを行うための準備をする。前期はプロジェクトワークをするために必要となる、資料の読解やインタビュー、アンケート調査、分析、まとめ、発表、ディスカッションなどの練習を行う。また、後期に行うプロジェクトワークのテーマや視点などの例を示していく。様々な活動を日本語で行うことを通して、日本語の運用能力を総合的に向上させることを目指す。
日本語演習b	本科目は、講義科目である。 本科目では、「日本語演習a」を学んだ学生が、日本語を用いてプロジェクトワークを行う。後期はテーマを決めて、文献調査や実地調査を行い、何らかの形にまとめて発表をする。どのようなテーマでどのような成果物にするかという点から、その年の履修者と話し合った上で決定するが、できる限り実際の課題解決につながるようなテーマを設定する。様々な活動を日本語で行うことを通して、日本語の運用能力を総合的に向上させつつ、日本語で目標を遂行することを目指す。
日本語聴解発話1a	本科目は、講義科目である。 本科目は、日本語能力試験N2レベルの学生が聴解力、発話力、語彙力、文法力を中級後半から上級にかけて向上させることを目的とする。在日期間が1年以上経過している学生であっても、聴解能力の伸びない学生が目立つ。その原因は「耳慣れ」の不足にあると考えるため、発音も含め日本語の音体系を身体の中に作ることから始める。また、聴き取れないのは、語彙力不足も大きな要因となっているため、習得語彙数の増加にも努める。
日本語聴解発話1b	本科目は講義科目である。 本科目は、「日本語聴解発話1a」を学んだ学生が、聴解力、発話力、語彙力、文法力を中級後半から上級にかけて向上させることを目的とする。聴解力が不足している受講生が多い場合は、前期に引き続き、発音練習を続け、日本語の音体系を体の中に作っていく。また、まとまった内容のものを聞いて理解した上で、自分の意見を表明する発話能力も伸ばすことを目指す。さらに、修得語彙数の増加も継続して努める。
日本語聴解発話2a	本科目は、講義科目である。 本科目では、「日本語聴解発話1ab」を修得済み、またはそれと同等のレベルがあるとみなせる学生が、N1取得を一つの目標と定め、聴解力、文法力、語彙力、発話力を養うことを目的とする。N1レベルの聴解問題を「正確に」聴き取り、質問に対して根拠や状況を説明した上で、解答を導く、という練習を行う。内容がおおよそ聴き取れればよしとするものではないので、文法力や語彙力が問われる。語彙力をつけるために、漢字や語彙の小テスト、カタカナのディクテーションなどを毎回実施する。授業外でも「注意深く聴く」時間を設けて、自身で聴解力を伸ばす自学自修が必要となる。
日本語聴解発話2b	本科目は、講義科目である。 「日本語聴解発話2a」を学んだ学生が、N1レベルの聴解力、文法力、語彙力、発話力を養うことを目的とする。N1レベルの聴解問題を用いて、話の構成を正確に聴き取り、それを説明する力をつけていく。漢字や語彙の小テスト、カタカナのディクテーションは前期に引き続き実施する。受検前の模擬試験では、答えを導き出した過程を重視する。授業外でも「注意深く聴く」時間を設けて、自身で聴解力を伸ばす自学自修が必要となる。発話においては、丁寧な言葉で話す習慣を身に付けることを目指す。
日本語読解1a	本科目は、講義科目である。 本科目は、日本語能力試験N2レベルの学生が読解力、語彙力、文法力を向上させることを目的とする。授業で扱う語彙や文法は、N2レベルから始める。読解もまずはN2レベルの文章を用いて、文の構造、段落内の構造、文章全体の構成等を理解する練習を積み、確実に読解力を身につけることを目指す。また、1つのものを読み終えたときに、意見交換を行うので、意見交換の方法を身につけ、他人の意見を聞いて自分の考えの幅を広げることを目指す。
日本語読解1b	本科目は、講義科目である。 本科目は、「日本語読解1a」を学んだ学生が引き続き読解力・語彙力、文法力を向上させることを目的とする。そのための構造理解も続ける。扱う文章はN2レベルから少しずつN1レベルへと引き上げていく。また、精読とは別に、文章全体からどのような情報やメッセージを得たか等の概略をつかむ読みや、レベルに合わせた楽しみのための読みなども適宜行う。語彙や文法はN2の力を確実に付け、N1レベルのものも取り入れていくようにする。
日本語読解2a	本科目は講義科目である。 「日本語読解1ab」を修得済み、またはそれと同等のレベルがあるとみなせる学生が、N1取得を一つの目標と定め、読解力と語彙力、文法力を身に付けるための科目である。ある程度の長さのある、論理的な文章を全体の構成を理解しながら的確に読みとる力を培う。また、短い文章を読んで討論をしたり、グラフ等を読み取ったりする練習も適宜行っていく。さらに、N1レベルの語彙の拡充、文法力の修得も目指す。
日本語読解2b	本科目は、講義科目である。 「日本語読解2a」を学んだ学生が、N1レベルの読解力、文法力、語彙力を養うことを目的とする。N1レベルの文章を用いて、文章全体の構成等を理解し、確実に読解力を身に付けることを目指す。語彙力、文法力もさらに増強していく。N1受検前は模擬試験も実施する。また、N1受検後は、情報を得るための読解だけでなく、楽しむための読解など、可能な限り実社会の題材を使うことにより、読解の幅を広げ、日本語による読解の習慣を付けていく。
日本語レポート1a	本科目は、講義科目である。 日本語能力試験N2レベルの学生が、レポート作成の基礎を学ぶための科目である。日本語でレポートを書くために必要となる、基礎的な知識(規則)を学び、正しい文法と語彙選択に基づきながら、読み手に伝わる、きちんとした文が書けるようにすることが目標である。文を正確に書くためには、文法力や語彙力が欠かせないため、文法や語彙を覚え、自分で文を書くときに覚えたものを使えるようにしていく。まずは、単文レベルで練習する。

授業科目の名称	講義等の内容
日本語レポート1b	本科目は講義科目である。 「日本語レポート1a」を学んだ学生が、引き続きレポート作成の基礎を学ぶための科目である。日本語でレポートを書くために必要となる、基礎的な知識(規則)を学び、正しい文法と語彙選択に基づきながら、読み手に伝わる、きちんとした文が書けるようにすることが目標である。文を正確に書くためには、文法力や語彙力が欠かせないため、文法や語彙を覚え、自分で文を書くときに覚えたものを使えるようにしていく。単文レベルから複数の文へと少しずつ書く量を増やすことを目指す。
日本語レポート2a	本科目は、講義科目である。 本科目では、「日本語レポート1ab」を取得済み、またはそれと同等のレベルがあるとみなせる学生が、日本語の文章を書く場合の基礎的な知識(規則)を学んだ(「1ab」を修得した学生は復習した)上で、その規則に則って文章、段落へと範囲を広げていくことを目指す。読み手に伝わる文章を書くためには、表現力が必要となるが、それは文法力や語彙の選択能力、文章の構成力からなるものである。これらの表現力をつけていくことを目指す。
日本語レポート2b	本科目は、講義科目である。 本科目では、「日本語レポート2a」を学んだ学生が、読み手に伝わる文章を書けるようにすることを目指す。そのためには、文法力や語彙の選択能力、文章の構成力を身につけ、最終的には、一つのテーマについて、複数の段落からなるまとまりのある文章を書けるようにする。また、引用の方法やグラフの書き方、参考文献なども書けるようにする。さらに、わかりやすい文章かどうか、正しく書けているかどうかについて、自分自身でもある程度チェックする力も養いたい。
日本語レポート3a	本科目は、講義科目である。 本科目では、「日本語レポート2ab」を修得済み、またはそれと同等のレベルがあるとみなせる学生が、大学の講義で求められるレポートを書けるようにする。まずは、これまでに学んだレポートの書き方を復習しつつ、全員が一つのテーマで、大学で求められるレベルのレポートの書き方を学ぶ。同じテーマで書いていくので、他の学生の書いたレポートからも相互に学びあいながら、よりよいレポートを書き上げていく。
日本語レポート3b	本科目は、講義科目である。 本科目では、「日本語レポート3a」を学んだ学生が、大学の講義で求められるレポートを書けるようにする。後期は、前期の経験をもとに、自分でテーマを決めて自分の力でレポートを書けるようにする。教師は指南役に徹するため、後期は自主的な取り組みが不可欠となり、かなりの時間の自習が必要となる。1年の学びを通して自力でレポートを書ける程度の力をつけ、「卒業論文」「卒業研究」の基本的な骨組みが理解できるようになることを目指す。
日本の政治と外交	本科目は、講義科目である。 本科目では、戦前から今日までの日米外交関係を主軸に、主として一次史料や資料をもとに検証し、自分の視点で日米関係に関する意見を持てるようになるための講義を行う。日本とアメリカの力関係を中心に、これまでの特殊な二国間関係を分析する。単に知識を与えるのではなく、毎回ごとに学生に課題を提示し、学生同士で当時の状況を踏まえ、いま日本はどのように動くべきか、世界の中での日本の立場はどのような位置づけにあるのかという点を議論し、日本の現状を客観的に俯瞰できるスキルを修得する。
日本風俗研究	本科目は、講義科目である。 本科目では、「風土」をキーワードとして、具体的に日常生活の中から具体的な表象文化を抽出することで、日本の風俗を構成する要素について講義する。個々の風俗事象を通して、文化培養の方法論的理解と共に、その周辺要素への理解を深める。それによって、日本文化における「くにぶり(風俗)」を学ぶ。併せて、グローバルizmとダイバーシティの現代において、諸外国との文化比較への視点を涵養することで、日本の風俗が単体で存在しているのではないことについて学び、その諸相の知識を修得する。
ネットビジネス中国語	本科目は、講義科目である。 本科目では、簡単な中国語のビジネスメール・ファックスを読むこと及び日本語に訳すことを行う。具体的には、インターネット等を用い、中国各種企業のホームページを閲覧し、各地政府が開設する外資系企業向けのホームページの掲載内容から検索し読む能力を養成する。中国におけるショッピングサイトなどを閲覧でき、販売実績の調査、商品の紹介、配送方法の確認などができるように演習を行う。中国大陸だけではなく、台湾などの華語圏の商業用語とそれと中国大陸との異同についても見識を広める。
発達心理学	本科目は、講義科目である。 本科目では、人間の発達と老化を理解するために、乳児期、幼児期、児童期、青年期、成人期、中年期、老年期における生涯発達のあらましを説明し、各発達段階の心理・社会的課題について講義を行う。各発達段階において、認知、感情、社会性、自己と他者の各領域にどのような変化が見られるのかを説明し、発達研究の基礎、発達の規定因についても概説する。誕生から死に至るまでの心身の発達や成長、成熟、生理的変化を、自己の体験も振り返りながら理解していく。
比較政治学	本科目は、講義科目である。 本科目では、アメリカおよびアメリカで最も人口の多いカリフォルニア州での政治・社会問題について講義する。日本に住む我々の日常生活では知り得ないことであっても、今後、国際社会の一員として知っておくべき事象について、日本との比較検討を行う。取り上げるテーマは、「アメリカにおける人種問題」、「カリフォルニア州における住民提案制度と日本」、「移民国家における言語政策」、「アメリカにおける非合法移民学生への対応」など多岐にわたる。これらについて、日本との比較を行なうことで、受講生への問題提起とディスカッションを実施し、各自の意見形成を図る。
比較政治文化論	本科目は、講義科目である。 本科目では、日本国内で教育を受けてきた学生たちが、日本とは異なる世界の価値観を知るための講義を行う。取り上げるテーマは、「食文化と国民性」、「移民と国際移動」、「駐日アメリカ大使・駐米日本大使選出論」、「アメリカのファーストレディと日本」、「社会生活と犬の役割」、「国立公園に対する政府と国民の思惑」など多岐にわたる。また、世界の動向を知るために、英字新聞や海外の文献を利用し、学生自身で日本との考え方の違いを議論し、自分の考えや意見を発信できる力を修得する。
Business English	本科目は、講義科目である。 本科目では、ビジネスの世界で成功するために必要な必須の言語スキルを学ぶ。将来、遭遇するあらゆるビジネスシーンにおいて使用される語彙、文法、および表現を学修することにより、以下の6つの能力を修得する。 ①オフィスでのメモ、指示、お知らせ、苦情の手紙、電子メールの送受信できる。 ②英語を用いた自己紹介やコミュニケーションをとることができる。 ③国際的な職場環境で求められるエチケットや礼儀作法に従うことができる。 ④海外出張で英語を使うことができる。 ⑤グループでのディスカッションや交渉の際に英語を用いることができる。 ⑥ビジネスシーンにおける面接場面等で英語を用いることができる。

授業科目の名称	講義等の内容
ビジネス日本語1a	本科目は、講義科目である。 本科目では、日本語能力試験N1を取得した学生が、敬語の仕組みや使い方、敬語表現などを身につける。将来日本語を使って仕事をする留学生にとって敬語学習は必須である。敬語の基本を学習することからはじめ、敬語を通して日本人の考え方を理解しながら、ビジネス場面に応じた練習を行う。敬語は間違えて使うくらいなら使わないほうがいいと言われるほど、正しさが求められるものである。敬語の形を覚えるのに自学自修が必要となる。
ビジネス日本語1b	本科目は、講義科目である。 本科目では、「ビジネス日本語1a」を学んだ学生が、ビジネス場面に応じた敬語の練習を行う。また、ビジネスマナーについても、日本人の考え方を理解しながら学ぶ。さらに、新聞記事を通して日本人や日本社会を理解し、自分の意見をまとめて記事とともに紹介し、ディスカッションする。応用力をつけるためには、敬語の基礎が身につけていて、状況を判断して言葉を選び使うことができないと学ばなければならない。授業の練習だけでは足りないため、日常生活のさまざまな場においても学ぶ姿勢を養う。
ビジネス日本語2a	本科目は、講義科目である。 本科目では「ビジネス日本語1ab」を修得した、またはそれと同等のレベルを有する学生が、ビジネス場面におけるコミュニケーション能力の向上を目指す。ビジネス場面のコミュニケーションは、いかに速く人間関係を理解し、自分の立場に見合った適切な敬語を使えるかにかかっている。前期は、敬語の復習のほかに場面練習も取り入れながら、理解力・運用能力を高めていく。また、ビジネス場面に不可欠な常識的な用語も学ぶ。
ビジネス日本語2b	本科目は、講義科目である。 本科目は、「ビジネス日本語2a」を学んだ学生が、前期に引き続き、ビジネス場面におけるコミュニケーション能力の向上を目指す。後期は、就職に役立つ検定試験BJT(ビジネス日本語能力テスト)のJ1以上の取得を目指す。勉強を通して、ビジネスコミュニケーション能力を高めていく。人間関係の理解・適切な敬語の運用につなげるため、なぜその解答を導いたのかを客観的に説明する能力も養う。また、ビジネス場面に不可欠な常識的な語彙も拡充していく。
ビジネス日本語基礎a	本科目は、講義科目である。 本科目では、日本語能力試験N1を取得していない学生が、卒業前に敬語全般について理解し、簡単な敬語が使えるようにすることを目指す。日本でも海外でも日本語を使って仕事をしていく上で、敬語は外せない。しかし、敬語を体系的に学んでいる学生はほとんどいないため、本科目ではまずは敬語の基本を学び、敬語の語形や表現を理解し、聞いてわかるようにする。また、簡単な敬語を使って会話できるようにする。
ビジネス日本語基礎b	本科目は、講義科目である。 本科目は、「ビジネス日本語基礎a」を学んだ学生が、簡単な敬語の会話や簡単なビジネスマナーを身につけることを目指す。就職して日本語を使って仕事をする際に、限られた場面ではあっても、どのような場面で敬語を使用するか理解し、適切に使用できるようにする。また、日本社会への理解を深めるために、新聞記事等から日本人や日本社会を読み解き、自分の意見をまとめて、発表することも適宜実施していく。
被服・化粧心理学	本科目は、講義科目である。 本科目では、被服や化粧のもつ社会心理学的な意味を探究する。非言語的なコミュニケーションとしての被服や化粧は、自己および対人関係の在り方と密接に関わっており、それらが自己や他者にどのような影響を及ぼしているかを理解するための講義を行う。「装い」と「粧い」についての対自的、対他的な機能を客観的に眺め、自己の心理的かつ社会的な適応力を高めることを目標とする。人はなぜ装うのか、化粧をするのかについて、具体的な実験例を紹介したりこれまでの理論を解説しながら、被服と化粧の心理について社会心理学の一分野としての立場からの説明を行う。
心理統計学2	本科目は、講義科目である。 本科目では、心理学的研究で使用される各種の統計法について講義する。データ処理の実際を通して学ぶ。到達目標は、以下の3点である。 ①心理学において統計が用いられる意義の理解 ②具体的な統計法の利用についてデータの特徴に応じた理解 ③統計法を用いてデータ処理の実行・解釈 具体的には実証的に卒業論文を作成するためのアンケート作成・分析・考察において、名義尺度データ、順位尺度データ、間隔・比率データ、多変量データなどを処理できる知識とスキルを実践的に修得する。
福祉心理学	本科目は、講義科目である。 本科目では、女性・児童・高齢者・障がい者・若者・生活困窮者などが直面している社会生活上の心理的・福祉的課題について扱う。日本の各種社会福祉施策や医療保険制度などについて講義する。日本の社会福祉が、第二次世界大戦後、欧米の取り組みを参考にしながらどのように変遷してきたか、また今後超高齢化社会を迎えるにあたりどのような課題と取り組みが必要であるのかを考えていく。そして、福祉対象者に対する心理支援の必要性やどのような支援が必要かについて、その歴史、現状、対象者による違いなどを含めて包括的に学ぶ。
Presenting in English 1	本科目は、講義科目である。 本科目では、プレゼンテーションを論理的で理解しやすくするための準備の方法を講義する。また、プレゼンテーションを理解しやすくするための適切なフレーズや表現について学修する。さらに、プレゼンテーションの3つの要素、visual, vocal, & verbalスキルに焦点を当てたフレームワークを通して、プレゼンテーションの作り方を学ぶ。宿題としてプレゼンテーションの原稿作成やビジュアルエイドの作成などを行い、プレゼンテーション後の分析を実施する。
Presenting in English 2	本科目は、講義科目である。 本科目では、高度な英語でのプレゼンテーションを論理的で理解しやすくするための準備の方法について講義する。また、プレゼンテーションを理解しやすくするための適切なフレーズや表現についても学修する。プレゼンテーションのトピックを調べることで、英語のボキャブラリーを増やし、英語の読解力を身につけます。宿題としてプレゼンテーションの原稿作成やビジュアルエイドの作成などを行い、プレゼンテーション後の分析を実施する。
プロジェクト型国際実習a	本科目は、実習科目である。 まず資料・文献調査およびフィールドワークの手法を修得する。その上で、資料・文献調査を通して、海外の調査対象地域の現状や課題を把握するとともに、国際学の視点から問題解決の可能性を検討した上で、現地実習で調査すべき事項をまとめた実習計画書を作成する。そして、現地で視察や聞き取り調査などの実習を行う。その後、調査結果を取りまとめ、国際学の視点から問題解決に向けた提案をまとめていく。これらを通して、地域社会や企業の問題解決の方策を立案する。

授業科目の名称	講義等の内容
プロジェクト型国際実習b	本科目は、実習科目である。 プロジェクト型国際実習1aで実施した資料・文献調査、海外の調査対象地域の現状や課題の把握、国際学の視点から見た問題解決の可能性の検討、そして現地での視察や聞き取り調査などの実習に引き続き、現地調査の結果を取りまとめ、国際学の視点から問題解決に向けた提案をまとめる。さらに、学外での学会大会などで成果発表を行うことを通して、地域社会や企業の問題解決に向けたプレゼンテーション力を修得する。
プロジェクト型国内実習a	本科目は、実習科目である。 まず資料・文献調査およびフィールドワークの手法を修得する。その上で、資料・文献調査を通して、国内の調査対象地域の現状や課題を把握するとともに、国際学の視点から問題解決の可能性を検討した上で、現地実習で調査すべき事項をまとめた実習計画書を作成する。そして、現地での視察や聞き取り調査などの実習を行う。その後、調査結果を取りまとめ、国際学の視点から問題解決に向けた提案をまとめていく。これらを通して、地域社会や企業の問題解決の方策を立案する。
プロジェクト型国内実習b	本科目は、実習科目である。 プロジェクト型国内実習1aで実施した資料・文献調査、国内の調査対象地域の現状や課題の把握、国際学の視点から見た問題解決の可能性の検討、そして現地での視察や聞き取り調査などの実習に引き続き、現地調査の結果を取りまとめ、国際学の視点から問題解決に向けた提案をまとめる。さらに、学外での学会大会などで成果発表を行うことを通して、地域社会や企業の問題解決に向けたプレゼンテーション力を修得する。
文学と宗教文化	本科目は、講義科目である。 本科目では、「日本の精神と言葉」をキーワードに、文学にとっての宗教とは何かを講義する。文学を考察する上で宗教文化や宗教哲学は不可分な要素であるが、それらを物語はどのように取り込み「日本的な心(信仰)」を具現化してきたのかについて学ぶ。さらに仏教やキリスト教の伝来によって、文学がその度に影響を受けてきた経過を理解することで、人にとっての「救い」や「祈り」とは何かについて学ぶ。受講生は、講義で取り上げる具体的な文学作品を通して、文学と宗教の不可分性についての知識と考え方を修得する。
文化交流史1	本科目は、講義科目である。 本科目では、古代以来、日本は、中国・朝鮮半島諸国をはじめとした東アジア諸国との交流を通じて、その文化を受容し、独自の日本文化を形成してきた過程について講義する。具体的には、3世紀の卑弥呼の時代から江戸時代の朝鮮通信使との交流に至る日本古代～近世の外交史を通史的に概観する。また、特論として、東アジア世界におけるアイヌ文化・琉球文化、およびオセアニアの諸文化を取り上げ、多彩な文化交流の諸相を修得する。
文化交流史2	本科目は、講義科目である。 本科目では、ロシア、中央アジア、モンゴルに跨がるユーラシア地域における文化の発展・交流の様相、および諸地域の文化が「国家」の統治構造や人々の思考様式に与えた影響について講義する。その目的は、我々がしばしば普遍的なものと思いがちな欧米的価値観を相対化し、さまざまな文化・習俗を尊重する視点を修得するところにある。こうした点に鑑み、本講義では、特にユーラシア地域を大々的に支配したモンゴル帝国およびロシア帝国・ソ連・現代ロシアにおける宗教文化の趨勢、ならびに文化や政体を発展させるために必要であった「水力」をめぐる地政学的な議論に着目する。
文化交流史3	本科目は、講義科目である。 本科目では、古代のギリシア・ローマから中世を経て、ルネサンス・バロック・ロココの時代、そして産業革命とフランス革命を経た後の19世紀近代市民文化、さらに20世紀以降の現代の国際文化へといたる、ヨーロッパ文化の歴史の変遷を、アフリカ、アジア、アメリカとの交流、とりわけ大航海時代以降の日本との交流も視野に入れて講義する。ヨーロッパの近代的価値観が揺らいでいる現在だからこそ、あらためてヨーロッパ文化の歴史を振り返ることで、人類史におけるヨーロッパ文化の歴史的意義を考察し、人類の来し方・行く末を考察する。本科目は、優劣を論じるのではなく、多文化が共生できる地球規模の思考を修得する。
文化心理学	本科目は、講義科目である。 本科目では、文化を記号として捉え、文化との関わりの中で創出される人間の心理や、文化と人間の心理の相互影響過程について講義する。特に思考様式における東西の文化差、人間観・世界観の文化差などについての最近の研究動向を紹介した文化心理学の文献をベースに、文化と人間の行為、活動、発達との関係について、いくつかの理論的立場とその関連領域について理解を深める。文化はあらゆる人の営みに潜んでいる。人間は文化を作り出し、学修・伝播・変容と継承を繰り返す中で新たな価値を創出する。人間が作り出したその文化が人間の行動、ものの見方や考え方に影響するのである。文化的存在である人間にとって、その心理的側面が文化と切り離せないものであることはいままでの文化心理学の理解を深める。
文化と言語化論	本科目は、講義科目である。 本科目では、「情報としての物語」をキーワードに、巷間に流布し浸透する真実と嘘が緋交ぜになった「都市伝説」について講義する。情報氾濫は同時に情報欠乏でもあり、虚実皮膜の間に言葉が介在することを理解し、『日本書紀』の時代以来、SNSによる発信が世論を形成する現代に至ってなお、人は物語を作り出し続けることを学ぶ。そこに関わって陰謀論が都市伝説として展開する現代社会において、物語ることによって人が歴史と歴史の狭間を埋めてきた方法としての「言語化」を学ぶ。受講生は、変わらぬ物語発信の方法とそのシステムについて修得する。
米文学概論	本科目は、講義科目である。 本科目では、アメリカ文学の歴史を学び、作品で使用されている英語表現の多様性、また作品の文化的背景を理解するための講義を行う。特に講義では、マイノリティーに属する作家、あるいは「越境作家の系譜」にも焦点を当て、ナボコフの『ロリータ』を中心に講義をすすめる。併せて、定義上は英文学に属するコンラッドとカズオ・イシグロも扱う。アメリカ文学史における主な時代区分ごとの作品の傾向や時代思潮を解説した後、主要と思われる作品を1作品ないしは2作品とりあげ、作品および作家研究を行う。また米文学の代表作を学修者用に書き直した、多読用図書の読解を通して、翻訳ではなく英語による作品理解と英語力の修得をする。
Basic English Grammar1	本科目は、講義科目である。 本科目では、大学初級レベルの文法知識を、リスニング・リーディング・ライティングを通して学ぶ。まず、使われている文法の意味を理解し、次にどのような形で使われているのか、そしてどのような文脈で使用されているのかを理解して、コミュニケーションに繋げる。具体的には、Be動詞、have、単純現在時制、現在進行、名詞・代名詞、可算・不可算名詞、過去時制について総合的に学ぶことにより理解を深める。
Basic English Grammar2	本科目は、講義科目である。 本科目では、Basic English Grammar1の学修内容を踏まえ、大学初級レベルの文法知識を、リスニング・リーディング・ライティングを通して学ぶ。まず、使われている文法の意味を理解し、次にどのような形で使われているのか、そしてどのような文脈で使用されているのかを理解して、コミュニケーションに繋げる。具体的には、過去時制、未来表現、法助動詞、名詞と修飾語、比較表現について総合的に学ぶことにより理解を深める。

授業科目の名称	講義等の内容
Basic English Reading 1	本科目は、講義科目である。 本科目では、大学初級レベルのリーディング能力の修得を目指して、テキストの各章に収められた英文の読解、およびその理解度を確認する問題に取り組む。円滑なリーディングを行う上で、語彙力は必要不可欠である。そのため、この授業でははじめに英和辞書・和英辞書の正しい使い方を修得したのちに特に語彙学修に力を注ぐ。頻繁に単語テストを実施することで、授業終了までに約300の新規単語を修得する。
Basic English Reading 2	本科目は、講義科目である。 本科目では、大学初級レベルのリーディング能力の修得を目指して、テキストの各章に収められた英文の読解、およびその理解度を確認する問題に取り組む。円滑なリーディングを行う上で、語彙力は必要不可欠である。そのため、この授業では特に、語彙学修に力を注ぐ。Basic English Reading 1で培った語彙力を背景に、さらに派生語や同義語の修得も目指す。頻繁に単語テストを実施することで、授業終了までに約300の新規単語を修得する。
Basic Oral Communication 1	本科目は、講義科目である。 本科目では、基本的な英語力を身につけながら、リスティングとスピーキングのスキルを向上させ身につける。以下の3点に重点を置き、大学初級レベルの英語のスピーキング力とリスニング力を養成し、口頭および文章で概要を英語で述べられるレベルを修得する。特に以下の3点に重点を置く。 ①大学初級レベルの英語で自分の考えを発表できる。 ②スピーキングとリスニングを通して異文化を理解し、様々な視点を知る。 ③自律的に学ぶ態度を修得する。
Basic Oral Communication 2	本科目は、講義科目である。 本科目では、「Basic Oral Communication 1」で修得した基礎的な英語力をさらに発展させる。基本的な英語力を身につけながら、大学初級レベルの英語のリスニング力とスピーキング力のスキルを向上させ、口頭および文章で概要を英語で述べられるレベルを修得する。特に以下の3点に重点を置く。 ①大学初級レベルの英語で自分の考えを発表できる。 ②スピーキングとリスニングを通して異文化を理解し様々な視点を知る。 ③自律的に学ぶ態度を修得する。
放送文化論	本科目は、講義科目である。 本科目では、担当者の放送局や広告代理店での経験をもとに、取材・制作する側の思惑・規制の実情とビジネス面からの構造分析とを交えて講義する。放送法や歴史的な変遷、テレビとネットの関わりについても取り上げ、テレビを中心とした放送産業の仕組み、社会における意味を考える。放送は「生きもの」であるため、過去の放送作品を尊重しつつ、最新の番組や、その時に話題になっているものを取り上げ理解を深める。
ポスト留学韓国語	本科目は、講義科目である。 本科目では、韓国語圏での短期・長期の語学留学を経た受講生を対象として、留学先で修得した韓国語能力(話す・聴く・読む・書くの4技能)のさらなる向上を図るための講義を行う。併せて、TOPIK3級以上の能力を修得する。中級レベルの語彙や表現を多用したテキストを読みながら、各トピックの内容を理解し、韓国語で議論・作文・プレゼンテーションを行うことで、コミュニケーション力を向上させる。また、韓国の言葉だけでなく、韓国文化や社会について熟知することで日本文化との比較方法を学び、異文化理解力を修得する。
ポスト留学中国語	本科目は、講義科目である。 本科目では、中国語圏留学経験者がさらにその中国語力を高めることを目標とする。具体的には、以下の6点に重点を置く ①語彙を生活用語から広げ、社会・経済・時事などの多分野の用語を身につける。 ②公式の場におけるスピーチ或いは通訳ができる。 ③簡単なプレゼンテーションができる。 ④複文・四字熟語等を駆使し、やや高度な中国語の文書を読み・書き・聴解ができる。 ⑤構文・読解・聴解力を修得する。 ⑥日常会話から初歩的ビジネスで活用可能な中国語力を修得する。
ホスピタリティ英語1	本科目は、講義科目である。 本科目では、ホスピタリティ業(エアライン関連・旅行代理店・ホテル・旅館・インバウンド/観光促進団体等)に関与するために必要な英語コミュニケーション・スキル、知識を修得する。様々な場面をシミュレーションし、自信を持って活用できるように、接客・接遇に不可欠な丁寧な表現や敬語表現を実際に使いながら必要な能力を獲得する。併せて、ホスピタリティ業についての資料を通じて学修したトピックを、プロジェクトやプレゼンテーションのテーマとしてまとめ発表する。
ホスピタリティ英語2	本科目は、講義科目である。 本科目では、ホスピタリティ業(エアライン関連・旅行代理店・ホテル・旅館・インバウンド/観光促進団体等)に関与するために不可欠な英語コミュニケーション力を楽しみながら修得する。様々な場面をシミュレーションし、自信を持って活用できるように、接客・接遇に不可欠な丁寧な表現や敬語表現を実際に使いながら覚えていく。併せて、ホスピタリティ業についての資料を通じて、学修したトピックをプロジェクトやプレゼンテーションのテーマとしてまとめた上で発表する。また、海外からのインバウンド客および海外での接遇に欠かせない、日本の伝統、催事、現代の社会などを英語で発信できるスキルを修得する。
ホスピタリティ産業論	本科目は、講義科目である。 本科目では、日本のホスピタリティ産業の現状や課題を確認した上で、ホスピタリティ産業の経営の特性を顧客満足と従業員満足に焦点をあてて考察し、経営上の課題を解決するための基礎知識を身につける。具体的には商品としてのホスピタリティの概念や顧客満足についての正確な理解を深め、とりわけ、観光企業では、どのようにホスピタリティを実践すればいいのか、そのために人材をどのように確保・育成すればいいのか、などについて検討する。また、優れた顧客満足活動を実践している観光企業についても考察し、ホスピタリティ経営についての学問的な理論が実践にどのように役に立つのかを学ぶ。
翻訳入門	本科目は、講義科目である。 本科目では、英語から日本語への翻訳の基礎を学ぶ。幅広いテーマの練習問題を通して実践することで、基本的な英語の知識、語彙力、表現力を向上させるだけでなく、日本語の語彙力や表現の力を修得する。翻訳に必要な英語を正確に読む力、コンテキストの理解、辞書の使い方、インターネットを使ったリサーチスキルに加え、ビジネス文書、メールやSNS、コミュニティでの案内文、文芸作品、歌詞など、幅広いジャンルを学ぶ。
マスコミュニケーション論	本科目は、講義科目である。 本科目では、SNSをはじめインターネットや放送や新聞を手がかりにマスコミュニケーションの課題に焦点をあて、歴史的アプローチから考察することでマスコミュニケーションの果たす社会的役割について講義する。通信技術の深化によりマスコミュニケーションの態様は変容し、FAKENEWSの広がりや価値体系の揺らぎが問題化している。そのため具体的事例を手がかりにマスコミュニケーションの歴史の変遷を概観し、社会とマスコミュニケーションの相関関係について理解を深め、知識を修得する。

授業科目の名称	講義等の内容
民間協力(NGO/NPO)論	本科目は、講義科目である。 本科目では、開発途上国と先進国で活躍する非政府組織(Non-Governmental Organization, NGO)と、非営利組織(Non-Profit Organization, NPO)について、その種類、目的、特徴、設立過程等をいくつかの団体を例にして講義する。またその団体が活動する国の政治、経済、社会状況も併せて講義する。受講生は、講義で取り上げる主なNGO団体(国境なき医師団、ペシワール会、グリーンピース、グラミンバンク、アドボカシーNGO)への理解を深める。主な活動現場である、バングラデシュ、インドネシア、インド、アメリカ、フランス、日本、台湾、パキスタン、アフガニスタン、アフリカ諸国等の現状を学ぶことで、知識を修得する。
メディア・情報文化史	本科目は、講義科目である。 本科目では、「情報と文化の関わり」に焦点をあて、歴史的アプローチから考察することで、情報メディアやそれらを支える関連施設の変遷内容を講義する。「情報と文化の関わり」について理解を深めるために、その構成要素となるメディアの発達過程を学ぶ。メディアによって発信される情報の内容が、時代的・社会的変化によって移り変わる様相についても具体的な事例を取りあげ解説する。さらにそれらを側面から支える関連施設や制度的な枠組みの展開について理解を深め、知識を修得する。
メディア表現論	本科目は、講義科目である。 本科目では、主に文学や映像、そして文化活動に焦点をあて、メディアを通じた表現が社会や歴史にどのような影響を及ぼしたかについて講義する。メディア表現とは「価値の創造」であるが、SNSやインターネットの普及により公共の言論プラットフォームであるメディアの態様も変容している。価値自体もメディアの変化に影響を受け、表現も移り変わる。そのため映画や小説など、具体的な表現事例を取り上げ、社会的、歴史的な位置づけを解説することでメディア表現の持つ価値創造機能について理解を深め、知識を修得する。
ヨーロッパ芸術論	本科目は、講義科目である。 本科目では、人類の普遍的な文化遺産であるヨーロッパの美術・演劇・音楽について講義する。古典美術やキリスト教美術、ルネサンス美術から20世紀の現代美術、ギリシア悲劇やシェイクスピア悲劇、モーツァルトやヴェルディのオペラからチャイコフスキーのバレエ、あるいはロンドン・ミュージカルなどは世界の共通言語となっており、その基礎知識なくしては、世界の人のびととの円滑なコミュニケーションがとれないほどである。異文化理解のための基礎知識を修得する。
Writing in English 1	本科目は、講義科目である。 本科目では次の①～④の内容においてその知識とスキルの修得を目指す。 ①パラグラフとは何か説明できる。 ②パラグラフの構成を理解し、適正なパラグラフを書くことができる。 ③目的によって様々なパターンのパラグラフを書くことができる。 ④複数のパラグラフから構成されるエッセイを書くことができる。 また、より効果的に文章を作成す上で、文章の構成方法を、「思考ツール」と呼ばれるソフトを用いて学修する。授業では、英検準一級レベルのライティング力を目指すことを目標とする。
Writing in English 2	本科目は、講義科目である。 本科目では、「Writing in English1」をふまえ、次の①～④の内容においてその知識とスキルの修得とさらなる向上を目指す。 ①パラグラフとは何か説明できる。 ②パラグラフの構成を理解し、適正なパラグラフを書くことができる。 ③目的によって様々なパターンのパラグラフを書くことができる。 ④複数のパラグラフから構成されるエッセイを書くことができる。 また、より効果的に文章を作成す上で、文章の構成方法を、「思考ツール」と呼ばれるソフトを用いて学修する。授業では、英検準一級レベルのライティング力を目指すことを目標とする。
旅行ビジネス論	本科目は、講義科目である。 本科目では、多岐にわたる旅行ビジネスの事業領域について講義する。具体的には、旅行業ビジネスを中心に、旅に関わるビジネス(宿泊・交通・娯楽・土産物・金融)の他、福利厚生代行事業・地域交流事業等である。旅行ビジネスの中核を成す旅行業ビジネス、その仕組みやビジネスモデルの変容を時系列に分析し学ぶと共に、宿泊施設・交通機関他、旅行業ビジネスの素材を提供する事業者についても、その関わりのなかで理解を深める。旅行ビジネスの本質に迫り、旅行ビジネスに関する基本的な知識の修得を行う。
歴史と文化入門	本科目は、講義科目である。 本科目では、「歴史と文化」の相関関係について講義する。講義では、ある一つの国を俯瞰するのと併せて、同時代的な世界の動向を把握し、歴史と文化の連動性や必然性について学ぶ。それによって、技術や文明のあり方や、文化培養の方法について理解する。特に、「日本と世界」をキーワードに、変わらぬ風土の下で宗教や伝統を中心とした文化のパラダイム転換がどのように図られるのかを具体的な事例を通して知識と理解を深め、全体像を修得する。